

- 第三十三條 取引所ノ税則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手數料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス
- 明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十二年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此ノ限ニ在ラス

○取引所法施行規則 明治三十二年七月農商務省令第十八號

明治二十六年七月農商務省令第十三號ヲ左ノ通改正ス

取引所法施行規則

- 第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添へ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
  - 一 發起人各自出資額
  - 二 資本金使用ノ概算
  - 三 設立ヲ要スル事由
  - 四 賣買取引スヘキ物件ノ其地區内ニ於ケル集散ノ沿革及現況

- 五 其地區内ニ於テ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ
- 第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添へ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
  - 一 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
  - 二 發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數
  - 三 其地區内ニ於テ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ
- 第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ隨時之ヲ告示スヘシ
- 第四條 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ二十五人以上ナルヘシ
- 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ付キ其半數以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會員組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人、株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タル資格ヲ有スル者ナルヘシ
- 第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
  - 一 取引所ノ地區
  - 二 賣買取引スヘキ物件
  - 三 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項
  - 四 會議ニ關スル事項
  - 五 手數料及仲買人ノ口錢ニ關スル事項
  - 六 仲買人ノ業務組合及規約ニ關スル事項
  - 七 仲買人ノ身元保證金及使用人ニ關スル事項
  - 八 仲買人ノ入退ニ關スル事項
  - 九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項



- 十 賣買、受渡及證據金ニ關スル事項
  - 十一 倉庫ニ關スル事項
  - 十二 公定相場ニ關スル事項
  - 十三 取引所ノ帳簿、記録及仲買人ノ帳簿ニ關スル事項
  - 十四 取引所ノ出納及決算ニ關スル事項
  - 十五 金錢及有價證券ノ保管ニ關スル事項
  - 十六 仲裁ニ關スル事項
  - 十七 違約處分ニ關スル事項
  - 十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項
- 第六條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 取引所ノ名稱及所在地
  - 二 會員ノ出資及身元保證金ニ關スル事項
  - 三 會員ノ入退ニ關スル事項
- 第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人發起ノ認可ヲ得タルトキハ少ナクトモ十四日間左ノ事項ヲ公告シテ會員ヲ募集スヘシ
- 一 發起認可ノ年月日
  - 二 取引所ノ組織、名稱及所在地
  - 三 取引所ノ地區
  - 四 賣買取引スヘキ物件
  - 五 資本金及發起人各自ノ出資額

- 六 各申込人ニ定款ヲ展開セシムヘキ事
  - 七 發起人ノ氏名
- 第八條 發起人會員ノ募集ヲ終ハリタルトキハ創立總會ヲ開クヘシ此總會ニ於テハ總會員ノ半数以上ノ承諾ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選舉ス
- 役員ハ設立免許申請書ニ定款、會員申込簿及申込人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第九條 株式會社組織ノ取引所ノ發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ總役員ハ商法第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 定款
  - 二 發起人各自ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面
  - 三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
  - 四 役員ノ選舉ニ關スル書類
- 第十條 發起ノ認可ヲ得タル後一年以内ニ設立免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ
- 第十一條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリントキハ總役員ハ創立總會終結ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 定款
  - 二 各株主ノ株式申込證ノ謄本及株主名簿
  - 三 商法第百三十四條ノ規定ニ從ヒテ役員又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及其附屬書類
  - 四 創立總會ノ決議錄



第十二條 役員認可申請書ニハ其役員ノ履歷書ヲ添へ設立免許申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 發起認可申請書及設立免許申請書ニハ地方長官其意見書ヲ添附スヘシ

第十四條 開業ノ日ヲ定メタルトキハ役員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十五條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金納入ノ後ニ非サレハ開業スルコトヲ得ス

第十六條 取引所設立ノ免許ヲ得タル後一年以内ニ開業セサルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條 取引所ハ前項ノ願書ニ意見書ヲ添附スヘシ

第十八條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付スヘシ

第十九條 取引所ハ前項ノ免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ免許料金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

第二十條 前項ノ請書ハ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十一條 仲買人前條第二項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ請書又ハ身元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十二條 仲買人應業シタルトキハ届書ニ免許狀ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十三條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シテ免許狀ノ再下付ヲ申請スヘシ

第二十四條 仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第二十五條 取引所又ハ其役員訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴訟ノ要旨及其年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ訴訟了シタルキ亦同シ

第二十六條 株式會社組織ノ取引所商法ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ登記シタル事項及其登

記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 取引所ハ左ノ報告書類ヲ調製シ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 毎日公定相場表

二 毎月賣買高表

三 毎月商品ノ集散及商況ニ關スル報告書

四 以上翌月十五日限リ發送

五 收支豫算表

六 以上議定後十五日限リ發送

七 毎半期財産目錄

八 毎半期貸借對照表

九 毎半期損益計算表

十 毎半期事業報告書

十一 毎半期末日現在會員、株主及仲買人並其使用人ノ氏名表

十二 以上決算期後二十日限リ發送

第十三條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ別段ノ規定アルモノノ外地方長官ヲ經由スヘシ

第十四條 地方長官前項ノ書類ニ付キ意見アルトキハ之ニ其意見書ヲ添附スヘシ

第十五條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ取引所ヲ經由スヘシ

第十六條 附則

第十七條 本令施行前ニ發起ノ認可アリタルモノニ付テハ第十條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起

取引所法施行規則



算ス

○取引所設立發起認可申請ニ關スル件 明治二十七年二月農商務省訓令第七號

取引所設立發起ノ認可ヲ申請スルモノアルトキハ左ノ各項ニ對スル意見ヲ添申シテ其申請書進達スヘシ

- 一 該地ニ於ケル其物件ノ集散ノ數量及ヒ集散ノ狀況果テ取引所ヲ設立シ之カ價格ヲ公定スルノ必要アルヤ否
- 二 該地ニ近接セル取引所ノ作用ニ依リ其物件ノ需用供給ノ關係ヲ圓滑ナラシムルニ足ラサルヤ否
- 三 該地ニ取引所ヲ設立スルモ將來能ク之ヲ保續シ得ヘキヤ否

○取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ

關スル規程並ニ仲買人免許料金額ノ件 明治二十六年七月勅令第七十四號

朕取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料、積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並ニ仲買人免許料金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ三萬圓以上トス

農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ得

第二條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ贖金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合ニ於

テ存留スル資本及其ノ他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ一トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セズ

營業保證金ハ營業開始前大藏省「預金局」預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ其全額ヲ地方廳ニ納ムヘシ但國債地方債證券ヲ以テ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ

資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限マテニ其手續ヲ爲スヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株金ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ利益ヲ會員ニ分配スルノ目的ヲ以テ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徵收スル手数料ハ取引所ノ組織、賣買ノ物件、賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應ジ賣買約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ率ヲ改定セシムルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ準備ノ積立金トシテ積置クヘシ但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ヲ支出セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ資本金營業保證金株式手数料積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程並ニ仲買人免許料金額ノ件



取引所ノ資本金營業保證金株式手数料積立金及賣買取引ノ方法ニ  
關スル規程並ニ仲買人免許料金額ノ件

七百七十四

第十條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ直取引、延取引及定期取引ノ市場ヲ開閉スヘシ但定款ヲ以テ  
定例及臨時休業ヲ爲スノ場合ヲ規定スルコトヲ得

第十一條 取引所ノ賣買取引ノ契約ハ現物、見本又ハ銘柄ニ依リ取結フヘシ

第十二條 取引所ノ賣買取引ノ契約履行ノ期限ハ當日ヨリ起算シ直取引ハ五日以内延取引ハ百五十日  
以内賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ三箇月以内取引所指定ノ限月ニ依ルヘシ

第十三條 取引所ノ定期取引ニ限リ左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

一 單位ヲ定メテ賣買スルノ方法

二 競賣買ヲ爲スノ方法

三 米ニ限リ標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品  
ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

四 契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スル所ニ依リ相殺スルノ方法

五 賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法

取引所ハ特ニ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ直取引及延取引ニ於テモ亦賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシム  
ルノ方法ヲ用ウルコトヲ得

第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ノ氏名賣買品ノ數量及其價格ヲ取  
引所ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 賣買取引ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ

第十六條 取引所ノ仲買人免許料ノ金額ハ拾圓トス

○米又ハ有價證券ノ取引市場ノ設立ニ關スル件 明治二十九年三月  
農商務省令第一號

米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ爾今地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クルニアラサレハ設立  
スルコトヲ得ス犯ス者ハ十圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以内ノ重禁錮ニ處ス

○商業會議所條例 明治二十三年九月  
法律第八十一號

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ左ニ掲ケタル者ヲ謂フ (二十八法律第二十三  
號ヲ以テ各號トモ改正)

一 商法第四條ノ商取引及同第五條第一號第三號第四號第六號ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル者

二 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合資會社株式會社及取引所

三 第一項ニ掲ケタル取引ヲ營業トスル合名會社ノ社員合資會社ノ業務擔當社員無限責任社員株  
式會社ノ取締役及取引所ノ理事長理事

第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人  
ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半

數以上タルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自己ノ意見ヲ  
添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互

米又ハ有價證券ノ取引市場ノ設立ニ關スル件 商業會議所條例

七百七十五

三十二年  
法律第四  
十八號ヲ  
以テ改正



ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得  
第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ(二十八法律第二十三號ヲ以テ)  
一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト

二 商業ニ關スル法律命令其他諸條規ノ制定改正廢止及施行方法ニ付意見ヲ行政廳ニ開申シ且商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ行政廳其他ニ表示スルコト

三 商業ノ實況及其統計ヲ行政廳其他ニ報告スルコト

四 商業ニ關スル事項ニ付行政廳ノ諮問ニ應答スルコト

五 法律命令其他諸條規若クハ行政廳ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所、仲立人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト

六 仲立人ノ資格員數及手数料ヲ審査スルコト

七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

第五條 會議所設立地ニ於テ第一條第一項ノ營業ヲ爲シ又ハ第一條第三項ノ社員役員ト爲リ其地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者並會議所設立地ニ於テ營業スル第一條第二項ノ會社及取引所ハ其會議所會員ノ選舉權ヲ有ス(二十八法律第二十三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第六條 會員ノ選舉權ヲ有スル會社及取引所並三箇年以上繼續シテ會員ノ選舉權ヲ有スル年齡滿三十歲以上ノ男子ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス(二十八法律第二十三號ヲ以テ次項トモ改正ス)會社及取引所代表スベキ者ハ第一條第三項ニ該當スル其社員役員ニシテ年齡滿三十歲以上ノ男子一人ニ限ル

第七條 第五條及第六條ニ掲ケタル會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ所得稅額又ハ會社取引所ノ資本金額ニ基キ特ニ之ヲ規定スルコトヲ得(二十八法律)

第二十三號ヲ以テ

次項トモ改正ス  
所得稅法第二十九條但書ニ掲ケタル地方ニ在テハ農商務大臣ハ所得稅ニ代フルニ他ノ稅ヲ以テシ

且其稅額ニ基キ財産上ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第八條 左ニ掲ケル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セズ

一 癡癩白痴ノ者

二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者

三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲ケル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス  
一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過意金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 第四條第七項ノ事件ニ係ル會議所ノ會議ハ公開スルコトヲ得ス(二十八法律第二十號ヲ以テ本條改正)



前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 會員選舉規則

二 議事規則

三 庶務規程

四 役員職務權限

五 仲裁規則

六 會計規則

七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之方爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

附則

第二十三條 會議所會員ハ此條例ノ改正ニ依リ被選ノ資格ニ異動ヲ生スルモ任期中ハ其職ヲ失ハサルモノトス(二十八法律第二十(三)號ヲ以テ本條追加)

○商業會議所條例施行規則

明治二十八年八月 農商務省令第九號

明治二十三年九月 農商務省令第十二號 商業會議所條例左ノ通改正ス

商業會議所條例施行規則

第一條 商業會議所設立ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署スヘシ

一 會議所ノ名稱、位置

二 設立地ノ區域

三 定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ定數

設立地ノ區域數市町村ニ互ルトキハ各市町村ニ於テ發起人アルコトヲ要ス

第二條 地方長官會議所設立ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ進達スルトキハ發起人ノ職業、年齡、所得稅



商業會議所條例施行規則

七百八十

納額ノ調書及會議所設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者、被選舉權ヲ有スル者ノ人員調書ヲ添附スヘシ

第三條 發起人會議所設立ノ認可ヲ得タルトキハ其旨ヲ設立地ノ商業者ニ公告シ認可ノ日ヨリ三十日以内ニ初回會員選舉規則及創立費豫算ヲ編製シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四條 發起人初回會員選舉規則及創立費豫算ノ認可ヲ得タルトキハ認可ノ日ヨリ六十日以内ニ第八條ニ依リ會員選舉ノ施行ヲ請求スヘシ

第五條 發起人ハ會議所初回ノ會議ニ際シ其執行シタル事務ノ報告ヲ爲シ一切ノ書類物件ヲ會議所ニ引繼クヘシ

第六條 會議所ハ前項ノ引繼ヲ受ケタル後六箇月以内ニ創立費決算報告書ヲ農商務大臣ニ進達スヘシ

第七條 會議所ハ會員ノ選舉ヲ爲ストキハ會員選舉人及被選舉人ノ名簿其他必要ノ書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ選舉ノ施行ヲ請求スヘシ但會議所設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ設置スル地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第八條 郡長若クハ市長會議所又ハ發起人ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲ爲シ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第九條 郡長若クハ市長會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 當選者ニ當選ノ通知ヲ爲シ會社、取引所ニハ通知ヲ爲スト同時ニ其代表人ノ氏名届出ヲ命スヘシ
- 二 選舉ニ關スル書類ハ會議所ニ引繼クヘシ

三 會議所創立ノ場合ニハ選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ場所及日時ヲ定メ會員ヲ召集シテ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

第十條 郡市町村長ハ會員選舉人被選舉人名簿ノ調製及會議所經費ノ賦課ニ關シテ必要ナル會員選舉權被選舉權ノ要件、所得稅納額及其他ノ納稅額調査ノ爲會議所又ハ發起人ヨリ請求アルトキハ其書類ヲ開示スヘシ

第十一條 會議所ハ會員、役員ノ就任退任アルトキハ七日以内ニ農商務大臣ニ届出ツヘシ特別會員ヲ置キタルトキ亦同シ

第十二條 會議所ハ經費豫算ノ認可申請書ヲ會計年度二箇月以前ニ進達スヘシ但創立ノ場合ニ於テハ定款認可後二箇月以内ニ進達スヘシ

第十三條 會議所ハ毎月執行シタル事務ノ要領ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 會議所第三條第四條及第六條規定ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ具シ其期限内ニ延期ヲ請フコトヲ得

第十五條 地方長官會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ虞アリト認メタルトキハ速ニ其事狀ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

○商業會議所條例中東京市ニ於ケル所得稅ノ等級  
明治二十三年十月農商務省令第十七號  
東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中「所得稅ノ等級ヲ明治二十年三月勅令第五號所得稅法第四條」ノ第四等以上トス

商業會議所條例中東京市ニ於ケル所得稅ノ等級

七百八十一



商業會議所條例中大坂市ニ於ケル所得稅ノ等級  
商業會議所條例中橫濱市ニ於ケル所得稅ノ等級  
會社及取引所ノ會員選舉權被選舉權ニ關スル財產資格

七百八十二

○商業會議所條例中大坂市ニ於ケル所得稅ノ等級明治二十八年二月  
農商務省令第二號

大坂市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ「明治二十年三月勅令第五號所得稅法  
第四條」ノ第四等以上トス

但此規定ハ現ニ商業會議所ノ會員タル者ニ對シテ任期滿了ノ時及退職ノ時ヨリ之ヲ施行ス

○商業會議所條例中橫濱市ニ於ケル所得稅ノ等級明治二十八年八月  
農商務省令第十號

橫濱商業會議所設立地ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ「明治二十年三月勅令  
第五號所得稅法第四條」ノ第四等以上トス

○會社及取引所ノ會議所會員選舉權被選舉權ニ關スル財產資格明治二十八年  
四月農商  
務省令  
第五號

商業會議所條例第七條ニ依リ會社及取引所ノ會議所會員選舉權被選舉權ニ關スル財產ノ資格ヲ東京及大  
坂商業會議所設立地ハ資本金額壹萬圓以上其他ノ商業會議所設立地ハ資本金額參千圓以上ト定ム

○在北海道商業會議所會員選舉被選舉權ニ關スル財產上ノ資格ノ件明治二  
十八年

七月農商務  
省令第七號

商業會議所條例第七條第二項ニ依リ北海道ニ設置スル商業會議所會員選舉被選舉權ニ關スル財產上ノ  
資格ハ所得稅ニ代フルニ地方稅ヲ以テシ且其納額三圓以上ト定ム

○私設鐵道法明治三十三年三月  
法律第六十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル私設鐵道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私設鐵道法

第一條 本法ハ軌道條例其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノヲ除クノ外一般運送ノ用ニ供スル私設鐵道  
ニ之ヲ適用ス

私設鐵道株式會社カ運送營業ノ爲ニ支線ヲ敷設スルトキハ現ニ一般運送ノ用ニ供セサル場合ト雖本  
法ヲ適用ス

第二條 私設鐵道株式會社ヲ發起セムトスル者ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ假免許ヲ申請スヘシ

- 一 起業目論見書
- 二 假定款
- 三 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調書
- 四 線路豫測圖及說明書
- 五 敷設費用ノ概算書
- 六 運送營業上ノ收支概算書及說明書

起業目論見書ニハ發起人ノ各自署名捺印スルコトヲ要ス

在北海道商業會議所會員選舉被選舉ニ關スル財產上ノ資格ノ件 七百八十三

三十三年  
八月勅令  
第三百三  
十號ヲ以  
テ本法ハ  
明治三十  
三年十月  
一日ヨリ  
施行ス



第三條 主務大臣ハ前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ呈出ヲ命スルコトヲ得  
第四條 主務大臣ハ假免許ノ申請ヲ審査シ起業ノ大體ニ於テ不都合ナシト認ムルトキハ假免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 假免許ニハ本免許申請ノ期限ヲ附ス

前項期限内ニ本免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ假免許ハ其ノ效ヲ失フ但シ正當ノ事由アリテ延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ申請事項ヲ變更セシメ又ハ假免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

假免許ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ假免許ハ其ノ效ヲ失フ

第七條 發起人假免許狀ノ下附ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り起業目論見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得

定款ハ假定款ニ準シ之ヲ作ルコトヲ要ス

第一項ノ公告ニハ本法ニ依リ假免許狀ヲ受ケタル旨及假免許ノ年月日ト各株式申込人ニ假免許狀並定款ヲ展閱セシムル旨トヲ記載スルコトヲ要ス

第八條 發起人總員ハ少クモ總株式ノ十分ノ二ヲ引受クルコトヲ要ス

第九條 株式ハ金銀ヲ以テスルノ外之ヲ引受クルコトヲ得ス

株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第十條 發起人ヲ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキ又ハ創立總會終結シタルトキハ取締役ハ左ノ書類圖面ヲ具シ主務大臣ニ本免許ヲ申請スヘシ

一 定款

二 工事ノ方法書

三 線路實測圖

四 工費豫算書

前項ノ申請ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 起業目論見書ノ謄本

二 假免許狀ノ謄本

三 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シタル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定書ノ謄本

四 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄本、發起人、取締役、監査役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事及決議ノ要領

第十一條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請ハ定款ノ變更ト同一ノ方法ニ依リ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 創立總會ニ於テ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ假免許狀ヲ返納スヘシ

第十三條 主務大臣ハ第十條ノ書類圖面ヲ審査シ妥當ト認ムルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

本免許ニハ工事竣功ノ期限ヲ附ス工事竣功ノ期限ハ工區ヲ分チテ之ヲ附スルコトヲ得

公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ本免許ニ條件ヲ附スルコトヲ得

第十四條 會社ノ設立ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外本免許ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス  
設立ノ登記ノ期間ハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス



第十五條 本法及商法ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 本免許ヲ受ケタル後六箇月内ニ設立ノ登記ヲ爲ササルトキハ免許ハ其ノ效ヲ失フ

第十七條 會社ハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ取締役會議又ハ株主總會ニ

臨監セシムルコトヲ得

第十九條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ會計及財産ノ實況ヲ検査セ

シムルコトヲ得

検査官吏ハ會社ノ金庫、財産現在高、帳簿及總テノ書類ヲ検査シ取締役其ノ他ノ役員又ハ使用人ニ説

明ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 主務大臣ハ會社ノ會計ニ關スル準則ヲ設ケタルコトヲ得

第二十一條 定款變更ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ效ヲ生セス

定款ハ本免許ニ附セラレタル條件ニ違反スルコトヲ得ス

第二十二條 定款變更ニ因リ登記事項ニ變更ヲ生シ登記ヲ爲ストキハ定款變更認可ノ年月日ヲ併セテ

記載スルコトヲ要ス

第二十三條 會社ハ株主金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲

其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第二十四條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第二十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシ

テ之ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十六條 會社ハ株主總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管

理委託ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ定款變更ト同一ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

營業ノ管理委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ其ノ責ニ任ス

第二十七條 會社ノ取締役其ノ他ノ役員又ハ使用人ハ監督官廳ノ呼出ニ應シ説明ヲ爲スノ義務ヲ負フ

第二十八條 會社ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クコトヲ要ス

鐵道臺帳ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 會社ハ社債ヲ募集セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

社債募集ノ公告ニハ商法ニ規定スル事項ノ外其ノ認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニアラサレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第三十條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ鐵道及之ニ屬スル物件ヲ抵當トシテ負債ヲ爲ス

コトヲ得ス

前項ノ負債ハ定款變更ト同一ノ方法ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 前二條ノ債務ノ額ハ合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十二條 會社ハ每營業年度中ニ支拂フヘキ社債及負債ノ元利金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ

配當ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 鐵道及之ニ屬スル物件ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第三十四條 鐵道ニ屬スル物件ノ貸渡又ハ讓渡ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權



- 第十五條 本法及商法ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ届出ツヘシ
- 第十六條 本免許ヲ受ケタル後六箇月内ニ設立ノ登記ヲ爲ササルトキハ免許ハ其ノ效ヲ失フ
- 第十七條 會社ハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ  
主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得
- 第十八條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ取締役會議又ハ株主總會ニ  
臨監セシムルコトヲ得
- 第十九條 主務大臣ハ監督上必要ト認ムルトキハ所部ノ官吏ニ命シ會社ノ會計及財産ノ實況ヲ検査セ  
シムルコトヲ得  
検査官吏ハ會社ノ金庫、財産現在高、帳簿及總テノ書類ヲ検査シ取締役其ノ他ノ役員又ハ使用人ニ説  
明ヲ求ムルコトヲ得
- 第二十條 主務大臣ハ會社ノ會計ニ關スル準則ヲ設ケルコトヲ得
- 第二十一條 定款變更ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ效ヲ生セズ  
定款ハ本免許ニ附セラレタル條件ニ違反スルコトヲ得ズ
- 第二十二條 定款變更ニ因リ登記事項ニ變更ヲ生シ登記ヲ爲ストキハ定款變更認可ノ年月日ヲ併セテ  
記載スルコトヲ要ス
- 第二十三條 會社ハ株主金全額拂込前ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲  
其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得
- 第二十四條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ
- 第二十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシ  
テ之ヲ受ケルコトヲ得ズ

- 第二十六條 會社ハ株主總會ノ決議ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業ノ管  
理委託ヲ爲スコトヲ得ズ  
前項ノ決議ハ定款變更ト同一ノ方法ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第二十七條 營業ノ管理委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ其ノ責ニ任ズ
- 第二十八條 會社ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クコトヲ要ス
- 第二十九條 鐵道臺帳ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十條 會社ハ社債ヲ募集セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ  
社債募集ノ公告ニハ商法ニ規定スル事項ノ外其ノ認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス  
社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニアラサレハ之ヲ募集スルコトヲ得ズ
- 第三十一條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ鐵道及之ニ屬スル物件ヲ抵當トシテ負債ヲ爲ス  
コトヲ得ズ  
前項ノ負債ハ定款變更ト同一ノ方法ノ決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第三十二條 前二條ノ債務ノ額ハ合セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第三十三條 會社ハ每營業年度中ニ支拂フヘキ社債及負債ノ元利金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ  
配當ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第三十四條 鐵道及之ニ屬スル物件ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ズ
- 第三十五條 鐵道ニ屬スル物件ノ貸渡又ハ讓渡ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ
- 第三十六條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ  
合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リ設立シタル會社ハ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權



利及義務ヲ承繼ス但シ主務大臣ニ於テ之ヲ變更スルノ條件ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
會社合併ノ登記ニム商法ニ規定スル事項ノ外合併ノ認可ヲ受ケタル年月日ヨリ併セテ記載スルコトヲ  
要ス

第三十六條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 工費豫算ノ變更ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第三十八條 鐵道ノ建設、設計等ニ關スル法令ノ制定變更ニ因リ工事方法ハ變更ヲ受ク

第三十九條 會社ハ設立登記ノ日ヨリ六箇月内ニ鐵道ノ敷設ニ著手シ本免許ニ附シタル期限内ニ之ヲ  
竣功スヘシ

前項ノ著手期限ハ鐵道延長ノ場合ニ在リテハ其ノ本免許狀下付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ會社ハ  
期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災、事變ノ止ミタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ敷設ニ著手シ又ハ竣功シ難キトキハ期限經過前ニ  
延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

法令ノ結果ニ因リ工事方法ニ變更ヲ生シ又ハ主務大臣ノ命令ニ依リ若ハ其ノ認可ヲ受ケ工事方法ヲ  
變更シタルトキハ更ニ期限ノ指定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ法令ノ結果ニ因ルモノハ其ノ施行ノ日ヨリ一箇月内ニ、主務大臣ノ命令ニ依ルモノハ  
其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ又認可ヲ受クヘキモノハ其ノ認可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スコ  
トヲ要ス

第四十條 軌間ハ特許ヲ得タルモノヲ除クノ外三尺六寸トス

第四十一條 左ニ掲タルモノヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場、信號所及車庫、貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道員ノ宿舍及運輸保線ニ従事スル鐵道員ノ駐在所等ノ建設  
ニ要スル土地

四 鐵道ニ要スル車輛、器具ヲ修理製作スル工場及其ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建設ニ要スル  
線路ニ沿ヒタル土地

線路用地ノ幅員ハ築堤、切取、架橋等工事ノ必要ニ應シ工事方法書ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 道路、橋梁、河川、溝渠ニ關スル工事ノ施設ハ所管官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 線路ノ道路ヲ横斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若ハ踏切道ヲ設クヘシ其ノ他危  
險防止ノ爲必要ナル箇所ニハ牆、柵、門戶、堤塘、溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等充分ノ設備ヲ爲ス  
コトヲ要ス

第四十四條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ工事ヲ監視セシムルコトヲ得

工事カ工事方法書又ハ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令ニ違ヒタルトキハ主務大臣ハ其ノ改築ヲ命  
シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四十五條 會社ハ主務大臣ニ申請シ其ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第四十六條 運輸開始ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ鐵道ノ設備ヲ監査セシメ運輸  
ヲ開始スルニ適當ト認ムルトキハ其ノ許可ヲ與フヘシ若不適當ト認ムルトキハ其ノ改良ヲ命シ其ノ  
竣功ノ後更ニ運輸開始ノ申請ヲ爲サシムヘシ

第四十七條 前二條ノ規定ハ新設又ハ變更シタル建設物ヲ運輸ノ用ニ供スル場合ニ準用ス



第四十八條 主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ鐵道ノ設備又ハ運輸保線ノ方法ヲ監査セシメ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ危險ナリト認ムルトキハ其ノ施設ヲ終ル迄運輸又ハ使用ヲ停止スルコトヲ得

第四十九條 第四十四條第二項、第四十八條ノ規定ニ依リ改築又ハ必要ナル施設ヲ命セラレタルトキハ會社ハ之ヲ終リタル後主務大臣ニ申請シテ監査ヲ受クヘシ

第五十條 監査員ハ監査上必要ト認ムルトキハ取締役其ノ他會社ノ役員又ハ使用人ニ説明ヲ求メ及書類圖面ヲ檢閱スルコトヲ得

第五十一條 主務大臣ハ鐵道ノ設備カ運輸ノ必要ニ適セサルモノト認ムルトキハ之ニ適スヘキ設備ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 主務大臣ハ公衆ノ安全ノ爲官設鐵道ニ實施スル事物ヲ會社ニ命シテ施設セシメ其ノ他官設鐵道ニ實施スル規則ヲ私設鐵道ニ適用スルコトヲ得

第五十三條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ會社ノ鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ敷設シ又ハ會社ノ鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、溝渠若ハ運河ヲ造設スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ會社ニ命シ接續、橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第五十四條 前條ノ場合ニ於テ設備ノ供用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十五條 農工商業者カ其ノ產物、商品運送ノ爲敷設スル鐵道ヲ會社ノ鐵道ニ接續セシムルコトヲ

求メタルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

第五十六條 會社ハ運輸ニ關スル規定ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第五十七條 會社ハ旅客及荷物ノ運賃ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ運賃ノ變更ヲ命スルコトヲ得

運賃増加ノ公告ニハ其ノ認可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十八條 下等旅客運賃額ハ線路ノ距離一哩ニ付金二錢ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス但シ二哩未滿

ノ哩數ニ對シテハ其ノ一人ノ運賃額ヲ金四錢迄ニ定ムルコトヲ得

本法ノ規定ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ又ハ哩數ニ應シテ運賃額ヲ定ムルトキ生スル厘位ノ金額ハ之

ヲ錢位ニ切上クルコトヲ得

第五十九條 會社ハ運賃ノ割引ニ付テハ豫メ一定ノ準則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

準則ニ依ラサル運賃ノ割引ハ各場合ニ付認可ヲ受クヘシ

第六十條 主務大臣ハ運賃ノ算法、荷物ノ等級、運賃表ノ樣式及公告ノ方法等ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十一條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレハ鐵道運送ニ對シ何等ノ名義ヲ問ハス運賃以外

ノ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十二條 會社ハ列車ノ發着時間及度數ヲ定メ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ之ヲ變

更スルトキ亦同シ



主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ列車ノ種類、發着時間及度數ヲ定メ其ノ施行ヲ會社ニ命スルコトヲ得

第六十三條 主務大臣ハ會社ニ他ノ鐵道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 二箇以上ノ私設鐵道ヲ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ設備ノ變更、交互運輸ノ手續、運賃ノ割合其ノ他費用ノ負擔ニ付會社間ニ協議調ハサルトキハ申請ニ依リ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定ハ終局トス

官設鐵道ト私設鐵道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ定ム

第六十五條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ事故ノ届出ヲ爲スヘシ

主務大臣ハ監査員ヲ派遣シ事故ノ審査ヲ行ハシムルコトヲ得

事故審査ノ爲必要ト認ムルトキハ會社ニ命シ現狀ヲ存置セシムルコトヲ得

監査員ハ取締役其ノ他ノ役員使用人及關係人ヲ呼出、訊問シ其ノ他事故ノ審査ニ必要ナル審理手續ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 會社ハ營業年度毎ニ營業報告書ヲ調製シ定時總會後一週間内ニ主務大臣ニ差出スヘシ

第六十七條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ差出スヘシ

第六十八條 鐵道事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ヨリ發スル乘車證ヲ携帯スルモノハ無料ニテ乘車セシムヘシ

第六十九條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人、軍屬及警察官吏又ハ軍馬、銃砲、彈藥、糧食、被服、陣具、工銀、兵器具、天幕等ニシテ公用タルコトヲ證スル通券アルモノハ半價ヲ以テ輸送スヘシ

第七十條 囚徒及監守官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

第七十一條 會社ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時、戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スルノ義務ヲ負フ

第七十二條 政府ハ本免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後鐵道及附屬物件ヲ買上クルノ權ヲ保有ス

合併其ノ他ノ方法ニ依リ會社カ他會社ノ鐵道ヲ引受ケタルトキハ其ノ鐵道ニ對スル前項ノ期限ハ舊會社ニ本免許狀下付シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十三條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上クルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シテ買上價格ヲ定ム

前項ノ價格カ會社ニ於テ前五箇年間ニ株主ニ支拂ヒタル純益金ノ配當平均額ノ二十倍ノ金額ヲ超ユルトキハ該金額ヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

第七十四條 鐵道及附屬物件ノ狀態不完全ナルトキハ其ノ補修ニ要スル費額ヲ前條ノ金額ヨリ控除シタルモノヲ以テ買上價格ト爲スヘシ

前項補修ニ要スル費額ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ政府之ヲ定ム

第七十五條 前三條ノ規定ハ法令又ハ免許、許可若クハ認可ニ附シタル條件ノ故方ヲ妨ケス

第七十六條 會社カ第三十九條ノ期限内ニ鐵道ノ敷設ニ著手セヌ又ハ之ヲ竣功セザルトキハ免許ハ其ノ効ヲ失フ

第七十七條 會社カ第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十八條第二項ノ停止ノ命令ニ違反シタルトキハ其ノ違反ノ行爲ニ因リ得タル收入金ヲ沒收ス收入金ト區別シ難キ他ノ收入アルトキハ併セテ之ヲ沒收ス



第七十八條 會社カ法令ノ規定又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ依リ命セラレタル施設ヲ爲  
ササルトキハ政府ニ於テ之ヲ施行シ會社ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

第七十九條 第七十七條ノ沒收金及第七十八條ノ費用ハ監督官廳ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ  
徵收ス但シ其ノ先取特權ハ公課ニ次キ之ヲ行フ

第八十條 會社カ法令ノ規定又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ法令ニ基キ發スル  
命令ヲ遵守セズ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 官設鐵道又ハ他ノ會社ヲシテ會社ノ計算ヲ以テ運輸ヲ爲サシムルコト
- 三 免許ノ一部又ハ全部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セララルコトヲ得ス

第八十一條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付シ買受人ヲ  
シテ之ヲ竣功セシムルコトヲ得

買受人ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼ス但シ主務大臣ハ更ニ著手又ハ竣功ノ期限ヲ指定スルコ  
トヲ得

二回ノ公賣ヲ行フモ買受人ナキトキハ鐵道及附屬物件ヲ個個ノ物件トシテ之ヲ處分セシム

第八十二條 鐵道延長免許ノ失効又ハ取消ニ因リ前條ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テ鐵道ノ連絡上必要アル  
トキハ本線ノ免許ノ一部又ハ全部ヲ取消シ併セテ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ付スルコトヲ得

第八十三條 會社ハ免許ノ全部失効又ハ全部取消ニ因リテ解散ス其ノ本免許ノ申請ヲ却下セラレタル  
トキモ亦同シ

第八十四條 假免許ヲ受ケヌシテ會社設立ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ免許ヲ受ケヌシテ工事ニ著手シタ  
ル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 事故審査ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナシテ現狀存置ノ命令ニ違反シ又ハ呼出、訊問ニ應  
セズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運  
輸ノ用ニ供シ又ハ第四十四條第二項第四十八條第二項ノ規定ニ依ル停止ノ命令ニ違反シタルトキハ

取締役ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第十九條第二項第二十七條第五十條ノ場合ニ於テ呼出ニ應セズ又ハ説明ヲ拒ミ若ハ虛偽  
ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十八條 左ノ場合ニ於テハ發起人、取締役ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ定メタル登記事項ノ登記ヲ怠リタルトキ
- 二 第七條、第二十九條第二項、第五十七條第三項ノ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正  
ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三 鐵道臺帳ノ調製備置ヲ怠リ之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 本法ニ定メタル營業報告、統計書、事故其ノ他ノ届出及法令ニ基キテ監督官廳ノ命シタル報告  
届出ノ呈出ヲ怠リ又ハ故意ニ不正ノ報告届出ヲ爲シタルトキ
- 五 法令ノ規定若ハ法令ニ基キテ發シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ  
發シタル命令ニ違反シタルトキ

第八十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役ヲ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキ事項ニ關シ之ヲ受ケヌシテ施行シタルトキ



二 第二十五條ノ規定ニ違反シ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ  
 三 第三十二條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ  
 四 本法ニ定メタル主務大臣ノ裁定ヲ遵守セザルトキ  
 第九十條 過料ノ徵收ニ關シテハ非訟事件手續法ヲ適用ス

補則

第九十一條 一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第九十二條 第十六條ニ定メタル期間ハ舊商法ノ規定ニ從ヒ會社ノ設立ヲ爲ス場合ニハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年トス  
 第九十三條 第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受ケタル株式ニ付テハ之ヲ適用セス  
 第九十四條 第三十一條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル債務ニ付テハ之ヲ適用セス  
 第九十五條 第三十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設定シタル質權ノ效力ヲ妨ケス  
 第九十六條 第七十三條第三項、第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ免許ヲ受ケタル鐵道ニ付テハ會社ト協議ヲ經タル上ニ非サルハ之ヲ適用セス  
 第九十七條 私設鐵道株式會社ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及其ノ附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス  
 第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 私設鐵道條例及明治二十八年法律第四號ハ之ヲ廢止ス

三十三年八月三十一日  
 明治三十三年十月一日施行ス

○鐵道營業法 明治三十三年三月法律第六十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規定ニ依ルハシ  
 第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

鐵道運輸規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 運賃ノ増加及運送取扱條件ノ變更ハ關係停車場ニ二週間以上公告シタル後ニ非サルハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非ツレハ乗車セシムルコトヲ得ス

附添人ナキ重病者ノ乗車ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

第五條 火藥其ノ他爆發質危險品ハ鐵道カ其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得

第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備タル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒絶スルコトヲ得ス

- 一 荷送人カ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルトキ
- 二 貨物ノ運送ニ付特別ナル義務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メザルトキ
- 三 運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セザルトキ
- 四 貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ



- 五 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ  
前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ適用ス
- 第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限り之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ
- 第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限り貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ
- 第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得  
點檢ニ依リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限り鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス
- 前二項ノ規定ハ火藥其ノ他爆發質危險品ヲ成規ニ反シ手荷物中ニ收納シタル疑アル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際其ノ物品ノ種類、性質及價格ヲ明告シ且増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ハ損害賠償ノ責ニ任セス但シ鐵道カ増賃金ノ支拂ヲ請求セサルニ因リ荷送人ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項増賃金ノ割合ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第十二條 牛馬其ノ他ノ獸類ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際價格ヲ明告セサルトキ又ハ明告スルモ鐵道運輸規程ニヨリ鐵道ノ請求スル増賃金ヲ支拂ハサルトキハ其ノ損害ニ付鐵道ハ鐵道運輸規定ニ定ムル最高金額迄ヲ限り賠償ノ責ニ任ス

- 前項賠償金額ノ制限ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ損害ヲ生シタル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第十三條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失、毀損ニ付テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ限り損害賠償ノ責ニ任ス
- 第十四條 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
- 第十五條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非サレハ乗車スルコトヲ得ス
- 乗車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限り乗車スルコトヲ得
- 第十六條 旅客カ乗車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
- 乗車後旅行ヲ中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第十七條 天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ運送ニ著手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應シ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得
- 第十八條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乗車券ヲ呈示シ検査ヲ受クヘシ  
有效ノ乗車券ヲ所持セス又ハ乗車券ノ検査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ罰増賃金ヲ支拂フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ乗車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス
- 第二章 鐵道係員
- 第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十條 私設鐵道ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス



第二十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 旅客及公衆ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第二十三條 私設鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ク

會社ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ會社之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 鐵道係員職務取扱中旅客若ハ公衆ニ對シ失行アリタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公衆ニ危害ヲ醸スノ處アル所爲アリタルトキハ五百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超ヘ車中ニ乗込マシメタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レンシメタルトキハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十八條 鐵道係員道路踏切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ踏切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三章 旅客及公衆

第二十九條 運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ左ノ行爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 有效ノ乘車券ヲ持テ乘車シタルトキ

二 乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乘リタルトキ

三 乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セサルトキ

第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詐稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐偽ノ行爲ヲ爲シタル者ハ

三月以下ノ重禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發質危險品ヲ託送シ又ハ車中ニ携帯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 列車警報機ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 列車運轉中乗降シタルトキ

二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在ル車扉ヲ開キタルトキ

三 列車中旅客乗用ニ供セサル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條 制止ヲ肯セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ

二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子妄ニ立入りタルトキ

第三十五條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ妄狀ヲ現ハシ其ノ他不良ノ行狀ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識揭示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十七條 停車場其ノ他鐵道地内ニ妄リニ立入りタル者ハ科料ニ處ス

第三十八條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ノ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス



第三十九條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ傳染病患者ヲ乗車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス傳染病患者其ノ病症ヲ隠蔽シテ乗車シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公衆ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

一 有效ノ乗車券ヲ所持セズ又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ノ支拂ヲ肯セサルトキ

二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ肯セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ

四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十三條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罪金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪若ハ違警罪ノ現行犯アリタルトキ被告人カ其ノ住所氏名ヲ分明ニ告知セズ又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

附則

第四十四條 本法ハ私設鐵道法ニ依ラサル私設鐵道ニハ之ヲ適用セス

第四十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道略則鐵道犯罪罰例明治十六年七月第二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

○臺灣鐵道營業ニ關スル律令 明治三十三年八月律令第十六號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣鐵道營業ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣鐵道營業ニ關スル律令

第一條 鐵道營業ニ關シテハ明治三十三年法律第六十五號鐵道營業法ニ依ル

第二條 鐵道營業法中命令ヲ以テ定ムヘキ事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

鐵道營業法中主務大臣ノ職務ニ屬セシメタルモノハ臺灣總督之ヲ行フ

附則

第三條 本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

○保險業法 明治三十三年三月法律第六十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保險業法

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ムルコトヲ得ス

第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス

第五條 損害保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス



- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 普通保險約款
- 四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
- 第六條 生命保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス
- 第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス
  - 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
  - 二 保險契約無効ノ原因
  - 三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
  - 四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
  - 五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
  - 六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務
  - 七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及ヒ範圍
- 第八條 第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
- 第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス  
主務官廳ハ本法及ヒ第五條並ニ第六條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產

- ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
- 第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財產ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 保險會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ事業ノ停止若クハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス  
主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
- 第二章 株式會社
- 第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
  - 一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍
  - 二 設立費用償却ノ方法
- 第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス
- 第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第二百四十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
- 第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非ツレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス



第二十一條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併契約書及ヒ各會社ノ財産目錄並ニ貸借對照表ヲ損害保險ニ在リテハ各被保險者ニ生命保險ニ在リテハ各保險契約者ニ送付シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

被保險者又ハ保險契約者カ前項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ述ヘタル者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

會社カ前三項ノ規定ニ依リテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル者ニモ對抗スルコトヲ得

會社カ被保險者又ハ保險契約者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ會社カ催告ヲ爲ササリシ者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十三條 第七十三條第二項、第七十四條及ヒ第七十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條第一項ノ規定ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍
  - 二 名稱
  - 三 事務所ノ所在地
  - 四 基金ノ總額
  - 五 基金ノ醜出者カ有スヘキ權利
  - 六 社員ノ責任ノ種類
  - 七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法
  - 八 剩餘金分配ノ方法
  - 九 會社カ公告ヲ爲ス方法
  - 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス
- 第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 基金ノ支拂ハ金銀以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス
- 第三十條 發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證ニ通ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限ニ在ラス



入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二十六條ニ掲ケタル事項

三 基金ノ騰出者ノ氏名、住所及ヒ其各自カ騰出スル金額

四 發起人ノ氏名、住所

五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額

六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數

第三十一條 社員カ豫定ノ數ニ滿テタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第四十三條及ヒ商法第百五十六條第一項、第二項、第百六十一條第三項、第四項、第百六十三條ノ規定

ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス

第三十二條 社員カ豫定ノ數ニ滿テタル後六个月内ニ發起人カ創立總會ヲ召集セサルトキハ申込人ハ

其申込ヲ取消スコトヲ得

第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十四條 取締役ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スル

コトヲ要ス

一 第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコ

トヲ要ス

第三十五條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第

四十四條、第四十五條、第百十九條、第百三十三條及ヒ第百三十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第二節 社員ノ權利義務

第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

二 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十九條 社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ騰出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其騰出ノ方法

ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承

諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼

セシムルコトヲ得

第三節 會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會

ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス



第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第四十五條 商法第五十六條第一項、第二項、第五十七條第一項、第五十八條第一項、第五十九條、第六十一條第一項、第二項、第四項及ヒ第六十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス  
第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セズ  
第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 社員ノ氏名、住所  
二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料  
三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス  
社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルトキヲ得

第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス  
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得  
第五十三條 商法第六十五條乃至第六十七條、第六十九條、第七十條、第七十四條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第六十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス  
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條 商法第六十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項、第八十六條及ヒ第八十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算  
第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス  
第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ

毎年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ



毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ騰出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス

第六十條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十二條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 死亡

三 破産

四 保險關係ノ消滅

第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六ヶ月前内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當タリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 社員カ百人未滿ニ減シタルコト

三 社員總會ノ決議

四 合併

五 破産

六 免許ノ取消



第七十三條 任意ノ解散及ヒ合併ノ決議ハ總社員ノ半数以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其効力ヲ生セス

第七十四條 合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 商法第七十六條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ一个月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一 一般ノ債務ノ辨濟
- 二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
- 三 基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第八十二條 第四十四條、第五十一條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條、第五百五十九條、第七十六條、第七十七條、第八十一條、第八十三條、第九十四條、第九十八條、第一百零五條、第一百零九條、第一百一十三條、第一百一十六條、第一百二十七條、第二百二十八條、第二百三十條、第二百三十一條乃至第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 補則

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
  - 二 社員名簿
  - 三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證
  - 四 主務官廳ノ免許又ハ其認證アル謄本
  - 五 創立總會ノ決議錄
- 第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做



ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十六條乃至第三百二十九條、第四百十一條乃至第六百六十五條、第七十三條、第七十四條第二項、第七十五條乃至第七十八條、第八十八條、第九十條、第九十三條第一項、第二項及ヒ第九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第九十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第四章 計算

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定

ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立タル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ

二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ

三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ

五 正當ノ理由ナクシテ本法ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメヌ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ

六 第十九條ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ

七 第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

八 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十九條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ



過料ニ處セラル

- 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
  - 二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
  - 三 第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申込書ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
  - 四 定款、社員名簿、總會ノ決議録、財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
  - 五 商法第八十一條ノ規定ニ依ル監査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ
- 第百條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
  - 二 第五十六條乃至第六十條ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ、其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金分配ヲ爲シタルトキ
  - 三 第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シタルトキ
  - 四 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ
  - 五 商法第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 第百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

- 第百二條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第百三條 商法施行法第九十五條乃至第一百六條ハ之ヲ削除ス
- 第百四條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ保險ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第百五條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得
- 非訟事件手續法第二百六條第一項、第二百二十四條第一項、第三百二十五條及ヒ第三百三十五條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第百六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
- 第百七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
- 第百八條 第三條、第四條、第八條乃至第十三條、第七十三條第二項及ヒ第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス
- 第百九條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テサルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス



前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第一百十條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第一百十八條、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百一十條 第九十二條及ヒ第九十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十二條 第二十條乃至第二十二條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十三條 第九十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第一百十四條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百四條又ハ第九九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第一百十五條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○保險業法施行規則 明治三十三年七月號 商務省令第十五號

保險業法施行規則左ノ通相定ム

保險業法施行規則

第一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及ヒ第六條ニ定メタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 發起認可ノ申請ハ株式又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ保險業法第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ノ外非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第六號及ヒ第九號ニ掲ケタル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號第三號及ヒ第五號ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第四條 保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添付スルコトヲ要ス

第五條 保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第六條 保險會社ハ保險證券並ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ一部ツツ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及ヒ第七號ニ定メタル權利ノ範圍ニ付當事者ニ拂渡スヘキ金額其標準若クハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添付スルコトヲ要ス

保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込免除ノ爲メニ保險金額ヲ減少スヘキコトヲ定メタルトキ亦同シ

第九條 保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ掲ケタル各方法ニ付キ其五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得

保險業法施行規則

八百二十一



ス

- 一 無擔保貸付ヲ爲スコト
  - 二 同一人ニ貸付又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト
  - 三 同一會社ノ株券若クハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト
  - 四 同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト
- 前項第二號及第三號ニ掲ケタル方法ニ依リテ利用シタル金ハ之ヲ通算ス
- 第十條 事業報告ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及ヒ監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス
- 一 事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件
  - 二 事業ノ成績(第一號書式ニ準ス)
  - 三 生命保險及ヒ火災保險ニ在リテハ統計(生命保險ニ在リテハ第二號乃至第七號書式、火災保險ニ在リテハ第八號書式ニ準ス)
- 第十一條 財産目録、貸借對照表、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス
- 第十二條 財産目録ノ一項目中ニ價格三千圓以上ノモノアルトキハ其項目ノ内譯トシテ之ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第十三條 財産目録及貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スヘカラス
- 第十四條 保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス
- 一 事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲サザルトキハ其金額

- 二 事業年度ニ於テ生シタル事故ノ爲メニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額
- 第十五條 生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及ヒ未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス
- 第十六條 生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セザルトキハ貸借對照表中責任準備金ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス
- 第十七條 生命保險會社ノ未經過保險料ハ箇々ノ契約ニ付キ之ヲ計算セザルトキハ其事業年度ニ收入シタル保險料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス
- 第十八條 損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(再保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス)中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲メニ積立ツヘキ支拂備金及ヒ其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス
- 第十九條 損害保險會社カ危險ノ發生セザル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲ爲ストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻シニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス
- 會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及ヒ前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス
- 第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ増額ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二十一條 責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス



第二十二條 任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十三條 合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ掲ケタル書類ノ外理由書、總會ノ決議録及ヒ合併後存続スル會社又ハ合併ニ依リテ設立スル會社ノ定款ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十四條 保險會社ノ發起人又ハ合併ノ手續ニ著手セザルトキハ認可ハ其効力ヲ失フ

第二十五條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ譯文ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十六條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價格ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル内外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十七條 前二十四條ノ規定ハ保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス但保險業法施行ノ日ヨリ六箇月間ハ第八條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十八條 保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ノ定款ノ規定ニシテ本則ノ規定ニ抵觸スルモノハ其施行ノ日ヨリ六箇月内ニ之ヲ改ムルコトヲ要ス

第二十九條 保險業法施行前ニ設立シタル會社カ其財産ヲ利用シタル方法カ第九條ノ制限ニ反スルモ之ヲ改ムルコトヲ要セズ但保險業法施行ノ後其利用ノ方法ヲ變更スルトキハ第九條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十條 商法施行前ニ設立シタル合名會社又ハ合資會社ニシテ保險ヲ目的トスルモノカ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲サントスルトキハ其認可申請書ニ理由書、決議録、財産目録及ヒ貸借對照表ヲ添付スルコトヲ要ス

附則

第三十一條 明治三十二年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

(書式)略之

○保險業法施行規則 明治三十三年七月臺灣總督府令第五十八號

保險業法施行規則左ノ通相定ム

保險業法施行規則

第一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及第六條ニ定メタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 發起認可ノ申請ハ株主又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ保險業法第五條及第六條ニ掲ケタル書類ノ外非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及第九號ニ掲ケタル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號第三號及第五號ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第四條 保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添付スルコトヲ要ス



第五條 保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及  
其登記ノ年月日ヲ臺灣總督ニ届出ツルコトヲ要ス

但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニアラス

第六條 保險會社ハ保險證券並保險申込書ノ雛形及廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部宛臺  
灣總督ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及第七號ニ定メタル權利ノ範圍ニ付當事者ニ拂渡スヘ  
キ金額其標準若ハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ  
記載シタル書面ヲ保險證券ニ添付スルコトヲ要ス

保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込ノ免除ノ爲ニ保險金額ヲ減少スヘキコ  
トヲ定メタルトキ亦同シ

第九條 保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ掲ケタル各方法ニ付其五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス  
一 無擔保貸付ヲ爲スコト

二 同一人ニ付貸付又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト

三 同一會社ノ株券若ハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

四 同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

前項第二號及第三號ニ掲ケタル方法ニ依リテ利用シタル金額ハ之ヲ通算ス

第十條 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス  
一 事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件

二 事業ノ成績(第一號書式ニ準ス)

三 生命保險及火災保險ニアリテハ統計(生命保險ニアリテハ第二號乃至第七號書式火災保險ニ  
アリテハ第八號書式ニ準ス)

第十一條 財産目録、貸借對照表、損益計算書及基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並利益又ハ剩餘金ノ  
配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 財産目録ノ一項中ニ價格三千圓以上ノモノアルトキハ其項目ノ内譯トシテ之ヲ記載スル  
コトヲ要ス

第十三條 財産目録及貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入ス  
ヘカラス

第十四條 保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス  
一 事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルトキ  
ハ其金額

二 事業年度ニ於テ生シタル事項ノ爲ニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムル  
トキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

第十五條 生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス

第十六條 生命保險會社カ純保險料式ニ依リ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ貸借對照中責任準備金  
ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ臺灣總督ニ差出スコトヲ要ス

第十七條 生命保險會社ノ未經過保險料ハ個個ノ契約ニ付キ之ヲ計算セサルトキハ其事業年度ニ收入  
シタル保險料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(再保險者ニ支拂タル保險  
料ヲ控除ス)中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收入シタル契約ノ爲ニ支拂タル保險料金額(再保險者ヨ



リ得タル保險金額ヲ控除ス。其契約ノ爲ニ積立ツヘキ支拂備金及其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス。

第十九條 損害保險會社カ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲ爲ストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス。

會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及前條ノ計算ニヨリテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス。

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ増額ヲ爲スコトヲ要ス。

第二十一條 責任準備金算出ノ爲ニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス。

第二十二條 任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議錄、財産目錄、貸借對照表及保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添付スルコトヲ要ス。

第二十三條 合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ掲ケタル書類ノ外理由書、總會ノ決議錄及合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添付スルコトヲ要ス。

第二十四條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ臺灣總督ニ差出スヘキ書類ハ本店又ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス。

前項ノ書類ハ強硬ナル美濃判大ノ料紙ヲ用非ルコトヲ要ス但シ印刷物ハ此限ニアラス。

第二十五條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ臺灣總督ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサ

ルモノハ之ニ其譯文ヲ添付スルコトヲ要ス。

第二十六條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ臺灣總督ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價格ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル内外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス。

第二十七條 前二十四條ノ規定ハ保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス但保險業法施行ノ日ヨリ六箇月間ハ第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得。

第二十八條 保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ノ定款ノ規定ニシテ本則ノ規定ニ牴觸スルモノハ其施行ノ日ヨリ六箇月内ニ之ヲ改ムルコトヲ要ス。

第二十九條 保險業法施行前ニ設立シタル會社カ其財産ヲ利用シタル方法カ第九條ノ制限ニ反スルモノ之ヲ改ムルコトヲ要セス但保險業法施行ノ後其ノ利用ノ方法ヲ變更スルトキハ第九條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス。

第三十條 商法施行前ニ設立シタル合名會社又ハ合資會社ニシテ保險ヲ目的トスルモノカ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲サントスルトキハ其認可申請書ニ理由書、決議錄、財産目錄及貸借對照表ヲ添付スルコトヲ要ス。

第三十一條 明治三十三年三月三府令第二十三號ハ之ヲ廢止ス。  
(書式) 略之

○鑛業條例 明治二十三年九月  
法律第八十七號



沿革畧記 明治元年四月鑛山ノ銅ヲ初メ古銅地銅等大坂銅會所へ廻送セシメ坑業者私ニ賣  
捌キ任用スルヲ禁ス○同年七月鑛山ノ金銀銅總テ鑛山局へ買收シ人民需用ノトキハ同局  
へ開申セシム○二年二月鑛山開採ハ其他ノ人民ニ故障ナケルハ出願ノ上掘出ヲ許ス且金  
銀銅其時ノ相場ヲ以テ賣買スルヲ許シ振出數量ハ各藩縣ヨリ届出シム○同年十一月新貨  
鑄造ニ由リ鑛山ノ金銀銅ヲ大藏省ニ買收シ恣ニ賣買スルヲ禁ス○四年四月鑛山開採請負  
ヲ出願シ許可スルモノハ相當ノ稅ヲ納メシム○同年七月前キノ金銀銅勝手賣買ノ禁ヲ解  
キ且ツ年々諸鑛物掘出高ヲ開申セシム○五年三月第百號ヲ以テ鑛山心得書ヲ頒布ス○六  
年七月第二百五十九號布告ヲ以テ鑛山其他諸坑業ノ規則ヲ改メ日本坑法ヲ制定ス○二十  
三年九月法律第八十七號ヲ以テ鑛業條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ  
第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス  
此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鋅鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、  
水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、格魯漢鐵鑛、滿奄鐵、砒鐵、磷鐵、黑鉛、石炭、亞炭石油土  
瀝青及硫黃ヲ謂フ(三十三年法律第七  
十四號ヲ以テ追加)  
第三條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ設立シタル會社ニ非レハ鑛業人トナルコトヲ得ス (三十三年法  
律第七十四  
號ヲ以  
テ改正)  
第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社

ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス  
第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲  
スコトヲ得ス  
第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ  
總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス  
第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半  
數ノ連署ヲ要ス  
第二章 試掘及採掘  
第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添へ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認  
可ヲ受クヘシ  
第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス  
試掘人前項ノ期限内ニ於テ其事業ヲ竣へ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコ  
トヲ得  
所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可ス  
ルコトヲ得  
第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得  
第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署  
ニ納ムヘシ  
前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサルモノハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス  
第十二條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添へ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署



ニ差出スヘシ

探掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スルト得此ノ期限内ニ差出ササルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條 探掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ探掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨驗ヲ必要ト要ムルトキハ探掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

探掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及探掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條 試掘又ハ探掘ノ出願同一ノ地ニ付キ二人以上アルトキハ出願ニ日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト探掘トニ係ルトキハ先ツ探掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣探掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試掘若クハ探掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長、探掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セズ

第十九條 試掘若クハ探掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長探掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若クハ特許ヲ取消スルト得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴ス

ルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ探掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

探掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

探掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付探掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

第二十三條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ探掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若クハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ試掘又ハ探掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ探掘若クハ鑛業止使用スルコトヲ得但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河川、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若クハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ探掘ヲ爲スコト



ヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ探掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サルモノト認めタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出ササルトキハ農商務大臣ハ其ノ探掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ探掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ違ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員

ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ヲ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ探掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ探掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ



於テ探掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ探掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ探掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、賣販代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ探掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認めタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出ササルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認めタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ

出訴ナルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認めタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認めタルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ探掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ探掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一 坑口ヲ開穿スル爲



一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一 鑛業上必要ノ製鍊場其ノ他ノ建物電線、鐵索及鐵管ヲ建設スル爲(三十三年法律第七十四號ヲ以テ改正)

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出

サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地

ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土

地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金

額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除

ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナササルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキ

ハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ケテ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒

ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ

使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ

其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、

損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコト

ヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ土地貸渡ニ就

テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代價ニ就テハ裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ

例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損

害賠償金又ハ賣買代價ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキ

ハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ



行フ

一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危険ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去スヘシ若シ右期限内ニ除去セザルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ審令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セザルトキ

一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ

一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ

一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セザルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ任拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ任拂フ爲スコトヲ得ス



第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘキ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一 十四年以下ノ男女ノ職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ工夫ノ死亡シタルトキハ埋葬料ヲ補給シ及遣旅ニ手當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ依リ癱瘓トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章 鑛業税及鑛區税

第七十三條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未満ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス

鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨ

二十五年  
大藏省訓令第二十  
一號鑛業税及鑛區  
税徵收取扱方  
示  
二十五年  
農商務省  
告示第二十  
十號鑛業製  
産物ノ價格  
ヲ定ム

リ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消ス

コト得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコト

ヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得シテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十

圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得シテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過

キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ

犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ述稅シタル者ハ其ノ稅連金額ノ三倍ニ相當スル

罰金ニ處シ其ノ連稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二十圓以上二十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處



三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減刑再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年癡癩白痴又ハ瘡癩ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

第九十三條 明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ菱鉛鑛、格魯鐵鑛、燐鑛、亞炭又ハ土瀝青ヲ採取スル者ニシテ明治三十三年六月三十日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採取區域ニ限リ第十六條及鑛區ノ面積ニ關スル第四十一條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ採取者ハ明治三十三年六月三十日迄、其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採取ヲ繼續スルコトヲ得

三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十四條 前條ノ規定ニ依リ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ第二十二條又ハ第二十三條ノ承諾ヲ得ルコトヲ得ルコトヲ要セス

第九十五條 第九十三條ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル鑛區ノ面積三千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例施行細則

明治二十七年農商務省令第六號鑛業條例施行細則左ノ通改正ス

鑛業條例施行細則

第一條 鑛業ニ關スル願書、請求書、届書及圖面ハ一件毎ニ調製スヘシ

鑛業ニ關スル願書又ハ其ノ添附圖面ニシテ本令ニ書式又ハ雛形ヲ定メタルモノハ其ノ書式又ハ雛形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

第二條 鑛業ニ關スル願書、請求書及届書ニシテ登録稅法第十四條又ハ明治三十二年勅令第四號ニ規定シタル事項ニ係ルモノニハ第十二號ノ書式ニ準シ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル上願書ヲ添附スヘシ

第三條 試掘願書及試掘地圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ試掘地略測圖ヲ添附シテ差出シ置キ試掘地圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以内ニ之ヲ出差スヘシ

第四條 鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リ鑛區圖ヲ添附セスシテ採掘願書ヲ差出ストキハ鑛區略測圖ヲ添附スヘシ



第五條 鑛業條例第四十七條ノ規定ニ依リテ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ニ因リテ測量認可證ヲ下付スルトキハ鑛山監督署長ニ於テ其ノ有効期限ヲ定メテ之ニ記載スヘシ

測量スヘキ土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ其ノ測量ヲ承諾シタルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第六條 試掘地略測圖及鑛區略測圖ハ出願地ノ位置及區域ヲ確定スル目的ヲ以テ調製スヘシ

試掘地圖及鑛區圖ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ調製スヘシ

第七條 出願區域ハ成ルヘク方形ニ近キ形狀ニ區劃スヘシ

略測圖ヲ以テ試掘又ハ探掘ヲ出願スルトキハ出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニハ不動物體ヲ選定スヘシ若シ不動物體ナキトキハ近傍ニ不動物體ヲ選定シ測點ニ對スル關係ヲ測定スヘシ

試掘地圖ヲ以テ試掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛區圖ヲ以テ探掘ヲ出願スルトキハ顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定シテ之ヲ基點ト爲シ測點ニ對スル關係ヲ測定スヘシ若シ測點カ顯著ナル不動物體ニ符合スルトキハ之ヲ基點トナスヘシ

出願區域ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニハ堅固ナル標杭ヲ設置シ之ニ測點ノ番號ヲ記載スヘシ若シ其ノ標杭カ不動物體ニ符合スヘキトキハ之ヲ設置スルコトヲ要セス

第八條 試掘地略測圖、鑛區略測圖、試掘地圖及鑛區圖ニハ左ノ事項ヲ明示スヘシ

- 一 基點及不動物體並ニ其ノ名稱、特徵
- 二 南北線及縮尺
- 三 出願地ヨリ五十間以内ニ他ノ試掘地、鑛區又ハ砂鑛採取地アルトキハ之ト出願地トノ關係

四 出願地内又ハ其ノ附近ニ鑛業條例第二十四條又ハ第二十五條ニ定メタルモノアルトキハ其ノモノ

五 出願地内又ハ其ノ附近ニ在ル鑛床露頭及其走向、傾斜

第九條 試掘地訂正願書又ハ鑛區訂正願書ニ添附スヘキ圖面ハ試掘地圖又ハ鑛區圖ニ準シテ調製シ新舊區域ヲ明示スヘシ

第十條 試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ニ依ルヘシ

第十一條 他人ノ試掘地又ハ鑛區ニ鄰接シテ試掘地又ハ鑛區ヲ得ントスル者ハ中間二十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ但鄰接鑛業人ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘地ニ於テ探掘ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲メ必要ナト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ前項ノ距離ヲ五十間迄延長スルコトヲ得

第十二條 試掘若ハ探掘ヲ出願スル者、鑛業特許證書換願ニ因リテ新ニ鑛業人ト爲ルヘキ者又ハ出願人變更願ニ因リテ新ニ出願人ト爲ルヘキ者二人以上ナルトキハ總代一名ヲ選定シテ之ヲ願書ニ記載スヘシ若シ之ヲ記載セサルトキハ初筆出願人ヲ以テ總代ト看做ス

前項ノ總代ハ出願ノ取消及出願人ノ變更ヲ除外共同出願人ヲ代表スルモノトス

第十三條 會社カ鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ届書ヲ差出ストキハ其書類ニ社印ヲ押捺シ且會社ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ

第十四條 試掘又ハ探掘ヲ出願シタル者ハ其出願區域ノ變更ヲ出願スルコトヲ得ス

第十五條 探掘出願人ヲ變更セントスルトキハ新舊出願人ノ連署連印シタル願書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ



第十六條 相鄰接スル鑛區ノ鑛業人カ鑛業條例第四十四條ノ規定ニ依リ關係鑛區ヲ増減シテ相互ノ境界ヲ訂正セントスルトキハ連署連印シタル鑛區訂正願書ニ改定境界ヲ圖示シタル現鑛區聯絡圖及各別ニ調製シタル訂正鑛區圖ヲ添附スヘシ

第十七條 掘探權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主アル場合ニ於テ鑛區ノ減區訂正ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ債主ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十八條 鑛業特許證書換願書、鑛區訂正願書、鑛區合併願書、鑛區分割願書、掘探權書入登錄願書、探掘ノ廢業願書及鑛業條例第九十條ノ規定ニ依ル探掘特許願書ニハ鑛業特許證書ハ借區券ヲ添附スヘシ

第十九條 試掘願書、採掘願書、試掘地訂正願書、鑛區訂正願書、試掘延期願書及試掘又ハ採掘ノ廢業願書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ  
前項ノ書類ヲ差出ス者ハ發送郵便局ニ於テ受附ノ年月日及時刻ヲ記載シタル書留郵便物受取證ヲ請置クヘシ

第三條又ハ鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リテ願書ト同時ニ差出ササル試掘地圖又ハ鑛區圖及第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長ヨリ期日ヲ指定シテ修正又ハ補充ヲ命セラレタル願書又ハ其ノ添附圖面ヲ差出ストキハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ但期限ノ末日ニ差出ストキハ三日以内ニ書留郵便物受取證ヲ差出スヘシ

第二十條 試掘、採掘、試掘地訂正、鑛區訂正並ニ試掘延期ノ出願日時及前條第三項ノ願書、圖面並ニ廢業願書ノ差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム  
前條第二項ノ受取證ノ差出ヲ命シタ場合ニ於テ其ノ指定期日迄ニ之ヲ差出ササルトキハ郵便物消印便ノ締切時刻ニ書類又ハ圖面ヲ差出シタルモノト看做ス

第二十一條 鑛山監督署長カ試掘願書又ハ採掘願書ヲ受理シタルトキハ其ノ出願地シテ地方長官ニ其ノ願書ノ要旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ出願地ノ試出又ハ採掘ニ付キ意見アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五十日以内ニ其ノ意見書ヲ所轄鑛山監督署長ニ送付スヘシ

第二十二條 鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ圖面カ不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ之ヲ修正又ハ補充セシムヘシ

第二十三條 試掘又ハ採掘ノ出願區域ノ一部カ鑛業條例ニ依リ鑛業ヲ許可スヘカラサルモノナルトキ又ハ他人ノ試掘地若ハ鑛區ト重複スルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ願書及圖面ヲ修正セシムヘシ試掘地又ハ鑛區ノ訂正願書ニ付テモ亦同シ

第二十四條 採掘出願地ニ鑛物ノ存在スル事實ヲ認定スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ鑛床ニ關スル證明書又ハ鑛物ノ標品ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十五條 鑛山監督署長ハ公益上豫防ノ設備ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ期日ヲ指定シ鑛業出願人又ハ鑛業人ヲシテ其設備ニ關スル設計書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十六條 鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ鑛業ニ關スル書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出スヘシ

第二十七條 鑛業ニ關シ農商務大臣又ハ鑛山監督署長ニ差出シタル書類、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セズ

第二十八條 鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ試掘地、鑛區其ノ他鑛業ニ關スル調査ノ爲メ立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會ヲ爲シ且調査事項ニ關スル説明ヲ爲スヘシ立會ノ期日ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス



立會ヲ命スルニハ正當ノ理由アル場合ヲ除外少クトモ十五日前ニ之ヲ豫告シ期日確定シタルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ

鑛業出願人又ハ鑛業人カ自ラ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スヘシ

第二十九條 鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ届書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ受理セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ明示スヘシ

一 第十九條第一項ノ規定ニ違反シ書留郵便ヲ以テ差出ササルトキ

二 登録税又ハ手数料ノ上納書ヲ添附セサルトキ

三 試掘願書、探掘願書、試掘地訂正願書又ハ鑛區訂正願書ニ圖面ヲ添附セス又ハ添附圖面ニ依リ出願ノ區域分明ナラサルトキ

第三十條 鑛業ニ關スル願書又ハ請求書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄鑛山監督署長ニ於テ事由ヲ明示シテ之ヲ却下スヘシ

一 第三條ニ定メタル期間内ニ試掘地圖ヲ差出ササルトキ

二 第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ修正又ハ補充ヲ爲ササルトキ

三 第二十四條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ證明書又ハ標品ヲ差出ササルトキ

四 出願人カ第二十五條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ設計書ヲ差出ササルトキ

五 出願人カ正當ノ理由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲ササルトキ

六 出願地調査ノ際出願人カ其ノ區域ヲ明示スルトキハ其ノ指示スル區域カ願書ニ

第三十一條 添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ又ハ鑛物ノ存在ヲ證明スルトキハ出願人カ

圖ト契印シテ之ヲ出願人ニ下付ス  
探掘ヲ特許スルトキハ鑛區圖ニ特許ノ番號ヲ記入シ農商務省及所轄鑛山監督署ニ保存スル鑛區圖ト契印シテ之ヲ鑛業特許證ニ添附シ出願人ニ下付ス

第三十二條 試掘又ハ探掘ヲ許可シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條 鑛業人カ第三十一條ノ規定ニ依リテ下付セラレタル圖面ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ再下付ヲ出願スルトキヲ得

第三十四條 鑛業條例第六條ノ總代届書ハ試掘、探掘又ハ鑛業特許證書換ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第三十五條 鑛業人カ前條ノ期間内ニ總代届書ヲ差出ササルトキハ第十二條第一項ニ定メタル出願ノ總代ヲ以テ鑛業條例第六條ノ總代ト看做ス

第三十六條 鑛業人カ自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選定シ連署連印シタル届書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第三十七條 鑛業代理人ハ左ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス但鑛業人カ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ鑛業代理人選定ノ届出ト共ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 試掘延期ヲ出願スルトキハ、試掘鑛物販賣ノ認可ヲ出願スルトキハ、鑛業條例第十一條第一項ノ金額ヲ納ムルトキハ、鑛業施業案ノ認可ヲ出願スルトキハ、坑内實測圖ヲ差出シ又ハ坑内實測圖ノ證明ヲ請求スルトキハ、鑛業條例第三十九條ノ届出ヲ爲スコト、同第四十條ノ帳簿ヲ調製スルトキハ、同第五十五條ノ判定又ハ裁定ヲ請求スルトキハ、鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ出願ス



ルコト、鑛夫名簿ヲ調製スルコト、鑛業税及鑛區税ヲ納ムルコト及鑛業條例第九十條ニ依リテ採掘特許ヲ出願スルコト

二 第三十三條ノ規定ニ依リテ圖面ノ再下付ヲ出願スルコト、第四十二條及第四十三條ノ届出ヲ爲スコト、鑛業警察規則第十四條、第十七條、第十九條及第二十一條ノ出願又ハ届出ヲ爲スコト

三 所轄鑛山監督署長ノ命令通知ヲ受クルコト及其命令ヲ執行スルコト

第三十八條 試掘人ハ試掘地圖、採掘人ハ左ノ書類及圖面ヲ鑛業事務所ニ備へ置クヘシ

一 鑛區圖

二 鑛業施業案

三 鑛業條例第四十條ノ帳簿

第三十九條 試掘延期ハ滿期前ニ出願シ且其ノ願書ニ試掘ノ成績及其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ

第四十條 鑛業條例第十條ノ規定ニ依リテ鑛物ヲ販賣セントスル者ハ試掘ノ認可番號、試掘地ノ地名、鑛物名、數量及見積代價ヲ記載シタル認可願書ヲ差出スヘシ但試掘地ニ於テ採掘ヲ出願シタルトキ、試掘ノ滿期又ハ廢業ノトキニ非サレバ之ヲ認可セス

第四十一條 鑛業施業案、鑛業條例第三十九條ノ届書及同第四十條ノ帳簿ハ第四號乃至第六號ノ雜形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類モ亦各合併シテ之ヲ調製スヘシ

第四十二條 鑛業條例第三十九條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四十三條 鑛業條例第三十九條ノ届書ハ採掘ノ廢業又ハ採掘權讓渡ノ場合ニ於テハ其ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ但届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四十四條 坑内實測圖ハ第三號ノ雜形ニ準シテ調製シ毎年六月末日及十二月末日ノ現況ヲ明示シ各八月末日及二月末日迄ニ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ但前期ニ差出シタル坑内實測圖ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ坑内實測圖モ亦合併シテ之ヲ調製スヘシ

第四十五條 鑛業條例第三十一條第三項ノ規定ニ依リテ坑内實測圖ノ證明ヲ得ントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第四十六條 鑛業條例第三十五條ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スル者ハ請求書ニ通テ作リ之ニ對手人ノ氏名、住所及請求ノ理由ヲ記載シ請求人ノ出願セントスル試掘地又ハ鑛區ノ圖面ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條第一項ノ規定ニ依リ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スル者ハ請求書及對手人ノ數ニ相當スル副本ヲ作リ之ニ請求ニ關スル土地ノ種目、番號、坪數、地價、對手人ノ氏名、住所、請求ノ事項並ニ理由、對手人ト協議シタル事實及請求人ニ於テ仕拂ハントスル金額ヲ記載シ關係土地ノ實測圖及工事設計書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

鑛業條例第三十六條又ハ第五十五條第二項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ前二項ノ規定ニ從ヒテ作リタル請求書ニ判定書ノ副本ヲ添附シテ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛山監督署長カ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ送付スヘシ

對手人カ前項ノ期間内ニ辯明書ヲ差出ササルトキハ鑛山監督署長又ハ農商務大臣ハ其ノ辯明書ノ差出ヲ待タスシテ判定又ハ裁定スルコトアルヘシ

第四十八條 相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル鑛業人ハ戶籍吏ニ届出タル日ヨ



リ三十日以内ニ其證明ヲ受ケ且鑛業特許證又ハ借區券ヲ添附シテ所轄鑛山監督署長ニ届出テ其ノ訂正ヲ受クヘシ

鑛業出願人カ死亡シタルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シテ届出ヲ爲スヘシ

第四十九條 會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テ其ノ社名又ハ代表者ヲ變更シ其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ會社カ解散シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第五十條 鑛業出願人又ハ鑛業人ニ命令通知ヲ要スルコトアル場合ニ於テ其ノ住所カ不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ所轄鑛山監督署ノ揭示場ニ揭示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間ノ末日ニ命令通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十一條 鑛業條例第三十條、第三十二條第二項、第三十四條第二項、第四十三條第二項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ行政裁判所ニ出訴シタル者又ハ同第三十四條第一項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ニ訴願シタル者ハ七日以内ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第五十二條 鑛業條例第二十八條、第二十九條、第四十三條第一項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ探掘特許ヲ取消シ又ハ同第三十七條ノ規定ニ依リテ廢業ヲ届出タル場合ニ於テ其ノ探掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主アルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ其ノ債主ニ通知スヘシ

第五十三條 試掘又ハ探掘ハ廢業届書差出ノ日時ニ於テ廢業シタルモノト看做ス

第五十四條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 坑内實測圖ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタル場合ニ於テ指

定ノ期日迄ニ之ヲ差出ササルトキ  
三 第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲サヌ又ハ調査事項ノ説明ヲ爲ササルトキ

四 第三十八條ノ書類又ハ圖面ヲ備ヘ置カサルトキ

五 第三十六條、第四十二條、第四十三條、第四十八條、第四十九條、第五十一條、第六十條又ハ鑛業條例第三十九條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲ササルトキ

第五十五條 前條ノ規定ハ鑛業代理人及會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第五十六條 鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書又ハ借區願書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ鑛業條例ニ依レル試掘願書又ハ探掘願書ト看做シ處分スヘシ

第五十七條 本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依レル願書又ハ請求書ト看做處分スヘシ

第五十八條 本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ明治二十七年勅令第百號ニ定メタル手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタルモノハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第五十九條 本令施行以前ニ差出シタル區域變更願書ハ本令施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第六十條 本令施行ノトキニ於テ會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ代表者ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第六十一條 本令施行前ノ行爲ニ付テハ其ノ施行ノ後ト雖モ明治二十七年農商務省令第六號ニ定メタル罰則ヲ適用ス

第六十二條 本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス

第六十三條 明治二十七年農商務省令第六號及明治二十九年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(書式雜形)略之



○鑛業警察規則 明治二十五年三月 農商務省令第七號

鑛業警察規則

- 第一條 鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ
- 第二條 鑛坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚鑛坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ
- 第三條 卷揚臺ヲ用ケテ人ヲ昇降セシムル鑛坑ニハ板圍アル鑛坑ノ梯子道ヲ設クヘシ
- 第四條 鑛坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ踏棚ヲ設クヘシ
- 第五條 人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ(二十六年農商務省令第七號ヲ以テ改正)
- 前項ノ卷揚臺ニ用ケル繩網ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ニルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ニルコトヲ得ス
- 第六條 人ヲ通行セシムル坑内ノ自轉車道及機械卷揚臺ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ人道ヲ設クヘシ(上全)
- 前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ
- 第七條 交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ(上全)
- 第八條 坑内ニハ鑛夫ノ衛生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ(上全)
- 第九條 破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ

巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス(上全)

石油坑口ニ於テハ發火具及危險ナル燈火ヲ使用スルコトヲ得ス(三十二年農商務省令第五號)

石炭坑ニ於テハ消防ニ關スル相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十條 安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ検査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス(二十六年農商務省令第七號ヲ以テ改正)

第十一條 安全燈ヲ用ケル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス(上全)

第十二條 鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス(上全)

第十三條 裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス(上全)

第十四條 鑛業ニ使用スル煙突汽罐又ハ燒鑛所ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書及圖面ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ(二十六年農商務省令第七號ヲ以テ追加シ)

第十五條 同一鑛区内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ探掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル様協議ノ上試掘又ハ探掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ(二十六年農商務省令第七號ヲ以テ改正)



第十六條 試掘ノ認可若クハ探掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ様修理スヘシ

第十七條 鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十八條 農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閱スルコトヲ得

第十九條 鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第二十條 鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十一條 鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ

第二十二條 鑛業人又ハ鑛夫カ本則ニ違反シタルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

第二十四條 本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○鑛業出願人等他ノ鑛物試掘探掘願方

第一條 鑛業出願人又ハ鑛業人其ノ出願地又ハ許可地ニ於テ他ノ鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ出願セントスルトキハ新規出願ノ手續ニ依ルヘシ

第二條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鑛業條例第九十三條ニ依リ探掘ノ特許出願者添付書類ノ件

第一條 鑛業條例第九十三條ノ規定ニ依リ探掘ノ特許ヲ出願スル者ハ願書及圖面ニ左ノ書類ヲ添付ス

一 事業ノ現狀ヲ詳記セル書類及圖面

二 明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ出願鑛物ヲ採取セルコトヲ證スル書類、圖面等

第三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○砂鑛採取法

第一條 此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫、及砂鐵ヲ謂フ

第二條 砂鑛ヲ採取セムト欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 採取ノ事業ヲ護護サントスルトキハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

鑛業出願人等他ノ鑛物試掘探掘願出方  
鑛業條例第九十三條ニ依リ探掘ノ特許出願者添付書類ノ件  
砂鑛採取法



(二十八年四月法律第三十號ヲ以テ本條并ニ次項トモ追加)

共同採取人中ニ於テ除名スルトキハ其ノ人名ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ヘシ

第四條 帝國臣民ニ非サレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコト得ス (十二)

八年四月法律第三十號ヲ以テ第三條ヲ第四條ニ改メ以下順次繰下ク

採取人未成年、瘋癲、白痴又ハ瘡痂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

第五條 採取區域内ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承諾ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人ハ自ら採取ヲ出願スルトキハ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鐵採取料ヲ要求スルコトヲ得

第六條 採取ノ事業公益ヲ害スルト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セス

第七條 採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第八條 採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムトスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除ク外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

採取業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ停止ヲ解クヘシ

第九條 採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 採取人正當ノ理由ナクシテ一箇年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ

採取ニ着手セザルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若シ其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ其ノ許可ヲ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得

第十二條 第七條第九條第十條及第十一條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一箇年間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得

- 第十四條 左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 一 洗鑛ノ爲
- 一 製鍊所建設ノ爲

第十五條 採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

其ノ賃入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ賃取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

第十六條 採取人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得

第十七條 第十三條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキハ其ノ土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第十八條 採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分轄シテ貸渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人



ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地賃渡、採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地賃渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十一條 採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十三條 此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ其ノ業ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

○砂鑛採取法施行細則 明治三十三年二月 農商務省令第四號

明治二十七年農商務省令第七號砂鑛採取法施行細則左ノ通改正ス

砂鑛採取法施行細則

第一條 砂鑛採取ニ關スル願書及添附實測圖ハ本令ニ定メタル書式及雛形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

前項ノ願書ニハ第四號ノ書式ニ準シ明治三十二年勅令第四號ニ定メタル手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル上納書ヲ添附スヘシ

第二條 採取區域内ノ土地カ他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添附スヘシ若シ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ヲ添附セサル採取願書ハ之ヲ受理セス

第三條 土地所有者又ハ關係人カ採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ニ於テ期日ヲ指定シ其ノ土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ若シ其ノ期日迄ニ願書ヲ差出サルトキハ出願セサルモノト看做ス

第四條 砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局ノ消印ニ依リテ差出ノ日ヲ定ムルモノトス

第五條 鑛業條例施行細則第四十六條及第四十七條ノ規定ハ砂鑛採取法第十一條ノ規定ニ依リテ採取許可ノ取消ヲ請求シ又ハ同法第十九條ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 採取人ハ第三號ノ雛形ニ準シテ前年中ノ砂鑛採取業明細表ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ



採取人カ廢業シ又ハ採取業ヲ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ第三號ノ雛形ニ準シテ調製シタル明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ明細表ヲ差出ス場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第七條 採取人カ廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

廢業ノ日ハ前項ノ届書差出ノ日トス

第八條 鑛業條例施行細則第十三條、第二十一條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十條、第三十二條及第四十八條乃至第五十條ノ規定ハ砂鑛採取ニ之ヲ準用ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ採取人ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ手續ヲ爲ササルトキ

二 鑛業條例施行細則第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ準シテ差出スヘキ書類又ハ圖面ヲ指定ノ期日迄ニ差出ササルトキ

三 鑛業條例施行細則第二十八條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ立會ヲ爲サス又ハ調査事項ノ説明ヲ爲ササルトキ

四 鑛業條例施行細則第四十八條、第四十九條又ハ第六十條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ届出ヲ爲ササルトキ

第十條 前條ノ規定ハ會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第十一條 本令施行以前ニ差出シタル砂鑛採取願書ハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有効トス

第十二條 鑛業條例施行細則第五十七條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ砂鑛採取ニ之ヲ

準用ス

第十三條 本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス

第十四條 明治二十七年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
(書式雛形)略之

○鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料 明治三十二年一月 勅令第四號

沿革書記 明治二十五年三月勅令第二十六號ヲ以テ鑛業ニ關スル手数料ヲ定ム○二十七年七月勅令第百號ヲ以テ前令ヲ廢止シ鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料ヲ定ム○三十年一月勅令第四號ヲ以テ前令ヲ廢止シ更ニ鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料ヲ定ム  
朕鑛業及砂鑛採取業ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
鑛業及砂鑛採取業ニ關シ左ニ掲グル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ收入印紙ヲ以テ每件左ノ手数料ヲ納ムヘシ

探掘特許出願人變更願

金十圓

坑内實測圖證明請求

金十圓

測量認可請求

金五圓

鑛業特許證再下付願

金五圓

鑛區又ハ試掘地許可圖再下付願

金十圓

鑛業條例第九十條ニ依ル探掘特許願

金十圓

砂鑛採取願

金十圓

但シ河床ニ在テハ延長五里迄毎ニ其ノ他ニ在テハ六十萬坪迄毎ニ一件トス



鐵業稅及鐵區稅徵收取扱方  
臨時鐵區調查處務規程

砂鐵採取業讓渡願

金十圓

鐵山監督署長ノ判定請求

金十圓

農商務大臣ノ裁定請求

金十圓

附則

本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第百號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○鐵業稅及鐵區稅徵收取扱方 明治二十五年四月  
大藏省訓令第二十二號

本年六月一日ヨリ鐵業條例施行ニ付鐵業稅及鐵區稅徵收取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 北海道廳長官府縣知事ハ鐵業稅及鐵區稅臺帳ヲ設テ每納期前鐵山監督署長ヨリ鐵業人ノ住所氏名及ヒ納稅額等ノ通知ヲ受ケテ之ヲ整理スヘシ但開業廢業其他通知ヲ受クヘキ手續ハ豫メ鐵山監督署長ト協議シ置クヘシ
- 一 鐵業稅又ハ鐵區稅ヲ滯納スル者アルトキハ其都度滯納者ノ住所氏名及稅目金額ヲ收入官吏ヨリ鐵山監督署長ヘ通知セシムヘシ

○臨時鐵區調查處務規程 明治三十二年一月  
農商務省訓令第一號

臨時鐵區調查處務規定左ノ通り相定ム

臨時鐵區調查處務規程

- 第一條 臨時鐵區調查ハ試掘探掘ノ許可地及砂鐵採取ノ許可地ヲ測定シテ聯絡圖ヲ調製シ許可區域ヲ整理シ相互ノ關係ヲ判明ナラシムルヲ以テ目的トス

第二條 從前已ニ實査確定セル許可地ニシテ更ニ測量スルヲ要セサルモノハ直ニ聯絡圖中ニ編入スヘシ

他ノ許可地ニ接近セス特ニ整理ノ必要ナキモノハ臨時調査ヲ爲スヲ要セス

聯絡圖ハ新規ノ許可地成立スル毎ニ補正スヘキモノトス

第三條 鐵山局長ハ農商務大臣ノ指揮ヲ受ケ臨時鐵區調査ノ區畫順序方法等ヲ定メ其事務ヲ監督ス

第四條 鐵山監督署長ハ所屬管内鐵區調査ニ關シ明治二十五年本省訓令第八號ニ依リ其署在勤臨時鐵

區調査員及其他ノ署員ヲ指揮シテ調査ニ從事セシムヘシ

第五條 臨時鐵區調査ニ依リテ許可圖ト實地トノ相違又ハ錯誤ノ處分ヲ發見シタルトキハ鐵山監督署

長ハ直チニ其整理ニ關スル相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 臨時鐵區調査ノ爲メ鐵業人又ハ採取人ニ命令示達ヲ要スル事項アルトキハ鐵業條例施行細則

及砂鐵採取法施行細則ノ規定ニ依ルヘシ

○臺灣鐵業規則 明治二十九年九月  
律令第六號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ得タル臺灣鐵業規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣鐵業規則

第一條 鐵業トハ鐵物ヲ探掘若クハ採取スル事業ヲ云フ建築用土石ハ此規則ニ依ルノ限ニアラス

第二條 鐵業ハ帝國臣民ニ限り之ヲ許可ス帝國臣民ニアラザレハ鐵業ニ關スル組合員又ハ會社ノ社員

若ハ株主ト爲ルコトヲ得ス

第三條 鐵業ヲ爲サントスル者ハ鐵區ヲ定メ地方廳ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ



鐵區測定ノ爲技術官ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅費及測量費ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

鐵業ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ手数料ヲ納ムヘシ其金額ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條 臺灣總督ハ鐵產地ノ狀況ニ依リ鐵區ノ區劃ヲ制限スルコトヲ得

第五條 鐵業ヲ出願スル者同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ臺灣總督ニ於テ適當ト認ムル者ニ許可ス

第六條 出願ノ鐵區廣キニ過キ若ハ其境界線互ニ交錯シ又ハ鐵利ヲ損スルトキハ臺灣總督ハ期日ヲ定メテ之ヲ訂正セシムヘシ

第七條 政府ニ於テ必要ト認ムル場所ナルトキハ其出願ヲ許可セズ

第八條 (三十一年律令第二十號ヲ以テ削除ス)

第九條 (上全)

第十條 詐偽ニ依リ得タル鐵業ノ許可ハ無効トス

第十一條 鐵業權ハ之ヲ相續スルコトヲ得

鐵業權ハ臺灣總督ノ許可ヲ得タルニアラサレハ賣買讓與シ又ハ債權ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第十二條 城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ採掘若ハ鐵業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其所管長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條 鐵道、公道、河湖、水道、運河、堤防、溜池、社寺、墓地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テ鐵物ヲ採掘セントスルトキハ所轄官廳ノ許可又ハ土地所有者若ハ關係人ノ承諾ヲ經

ヘシ  
危險ノ虞ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ミタルトキハ鐵業人ハ地方長官ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

前項地方長官ノ判定ニ不服アル者ハ其判定ノ違ヲ受ケタ日ヨリ三十日以内ニ臺灣總督ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 鐵業人鐵區ノ合併分割又ハ訂正ヲ爲サントスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ  
許可ノ鐵區權利ヲ損シ若ハ誤謬アリト認ムルトキハ臺灣總督ハ期限ヲ定メ其訂正ヲ命スルコトヲ得

第十五條 鐵業人六十日以上休業セントスルトキハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

相當ノ鐵業ヲ爲サス又ハ公益ニ害アリ若クハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ臺灣總督ハ其改良ヲ命シ又ハ場合ニ依リ事業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十六條 左ノ場合ニ於テ臺灣總督ハ鐵業ノ許可ヲ取消コトヲ得 (三十一年律令第二十二號ヲ以テ各號トモ改正)

一 一箇年以上休業シ又ハ許可ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鐵業ニ著手セザルトキ

一 錯誤ニ因リ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ

一 第十四條第二項第十五條第二項ノ命令ニ從ハザルトキ

一 納稅期限内ニ鐵區稅ヲ納メザルトキ

第十七條 鐵業ニ關スル臺灣總督ノ處分ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ許サス

第十八條 鐵業出願又ハ鐵業ノ爲他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ必要トスル者ハ地方長官ニ其認

可ヲ請求スルコトヲ得  
認可證ヲ携帶スル者ニ對シテハ其土地所有者又ハ關係人之ヲ拒ムコトヲ得ス但測量若ハ調査ノ爲ニ

損害ヲ生シタルトキハ請求者之ヲ賠償スヘシ

第十九條 鐵業人鐵業上必要アルトキハ土地所有者又ハ關係人ニ土地ノ貸渡ヲ強要スルコトヲ得  
貸渡タル土地ノ所有者又ハ關係人ハ相當ノ使用料ヲ請求シ及之ヲ前拂セシムルコトヲ得



- 第二十條 土地所有者又ハ關係人ト測量若ハ調査請求者又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡借地料損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ地方長官ニ其判定ヲ請求スルコトヲ得
- 地方長官ノ判定ニ不服アルトキハ其判定ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ臺灣總督ニ其裁定ヲ請求シ借地料損害賠償金若ハ土地賣買代價ニ就テハ地方法院ニ出訴スルコトヲ得
- 第二十一條 第十三條第三項及第二十條第二項ノ場合ニ於ケル臺灣總督ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス
- 第二十二條 地方長官ノ判定又ハ臺灣總督ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘシ
- 第二十三條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ地方長官ノ判定シタル借地料損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ不服アルモ其金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若之ヲ受ケサルトキハ其金額ヲ地方廳ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得
- 第二十四條 鑛業ノ許可消滅シ鑛業ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ地方長官ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス
- 第二十五條 鑛業人ハ鑛區稅トシテ鑛區一千坪迄毎ニ石炭石油硫黃砂錫砂鐵ハ一箇年金一圓金鐵砂金及其他ノ鑛物ハ二箇年金二圓ヲ納ムヘシ
- 鑛區稅ハ一箇年分ヲ其前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ鑛業許可ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ既納ノ鑛區稅ハ之ヲ返付セス
- 第二十六條 鑛業人ハ毎年一月七月ノ兩度ニ前六箇月間ニ探掘若ハ採取シタル鑛物ノ量數製產物其他販賣高販賣代價行業日數工數表ヲ作り地方廳ヲ經由シ臺灣總督ニ届出ツヘシ
- 前項ノ届書ハ鑛業ノ許可消滅シ鑛業ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シ若ハ鑛業權ノ賣買讓與ヲ爲シタル

- 場合ニ於テハ三十日以内ニ差出スヘシ
- 第二十七條 許可ヲ得スシテ鑛業ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ依リ鑛業ノ許可ヲ得タル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十八條 第十二條及第十三條第一項ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十九條 此規則ヲ犯シタル者ハ刑法ノ再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ適用セス
- 附則
- 第三十條 臺灣住民ニシテ此規則施行以前ニ許可ヲ受ケタル鑛業人ハ明治三十年五月八日迄ハ此規則ニ依リ引續鑛業ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ期限ニ際シ帝國臣民ト爲リタル鑛業人ハ此規則ニ依リ許可ヲ得タルモノト見做ス
- 第三十一條 此規則ノ施行細則ハ臺灣總督之ヲ定ム
- 第三十二條 此規則ハ明治二十九年九月十日ヨリ施行ス

○臺灣鑛業規則施行細則 明治二十九年九月  
臺灣總督府令第三十三號

臺灣鑛業規則施行細則

- 第一條 鑛業規則ニ依リ差出ス願書ハ第一號乃至第七號書式ニ從ヒ鑛區實測圖ハ第一號雛形鑛業規則
- 第二十六條ノ表ハ第二號雛形ニ準シ調製スヘシ
- 第二條 鑛業ニ關シテ次ニ掲ケタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ (三十年臺灣總督府
- 條第二號中追加シ書式第一
- 二號ノ次ニ書式ヲ加フ)



- 一 鐵業許可願 六十萬坪マテ毎ニ 金拾五圓
- 二 鐵業出願中ニ係ル區域變更願若ハ願人名義書換願 一件毎ニ 金五圓
- 三 增區ニ係ル鐵區訂正願 六十萬坪マテ毎ニ 金十五圓
- 四 增減區ニ係ル鐵區訂正願 增區六十萬坪マテ毎ニ 金十五圓
- 五 減區ニ係ル鐵區訂正願 一件毎ニ 金五圓
- 六 鐵區ノ合併若ハ分割願 一件毎ニ 金五圓
- 七 鐵業人名義書換願 一件毎ニ 金五圓
- 八 鐵業權債權擔保許可願 一件毎ニ 金五圓
- 九 鐵業許可書再下付願 總督府令第四十六號ヲ以テ 一件ニ付 金一圓 (三十二年臺灣)
- 十 本號ヲ加ヘ以下順次繰下ク) 測量及調査認可請求 一件毎ニ 金貳圓
- 十一 判定請求 一件毎ニ 金十圓
- 十二 裁定請求 一件毎ニ 金十五圓
- 第十三條 手数料ハ現金ニ納付書ヲ添ヘ之ヲ便宜ノ地方廳ニ納メ其領收証ヲ願書若ハ請求書ニ添付スヘシ
- 第十四條 願書請求書圖面ニ代印セシムルトキハ委任狀ノ正本ヲ添フヘシ
- 第十五條 他人ノ鐵區ニ接近シタル鐵業ノ出願アルニ當リ鐵利若ハ公安保護ノ爲必要ト認ムルトキハ其中間ニ相當ノ距離ヲ置カシムルコトアルヘシ
- 第十六條 鐵業出願人ハ臺灣總督府管内ニ自己又ハ代理人ノ住所ヲ定メ鐵區所在ノ地方廳ヲ經由シ民政局長ニ届出ツヘシ

- 第十七條 鐵業人及鐵業出願人ハ民政局又ハ地方廳ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ (三十二年臺灣總督府令第四十六號) (號ヲ以テ第一項第二項中追加)
- 第十八條 鐵業人及鐵業出願人民政局又ハ地方廳ヨリ實地調査ノ爲立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ若事故アリ他人ヲ以テ代理セシムルトキハ委任狀ヲ交付スヘシ (三十一年臺灣總督府令第十六號) (號ヲ以テ本項追加)
- 第十九條 鐵業人ハ毎年十二月坑内實測圖ニ葉ヲ製シ一葉ハ鐵業事務所ニ備置キ一葉ハ翌年二月限リ民政局長ニ差出スヘシ但事務所備置ノ分ハ事業ノ進歩ニ從ヒ毎月之ヲ補足シ前ニ差出シタル實測圖ト順次交換スルコトヲ得
- 第二十條 鐵業人自ラ鐵業ヲ管理セサルトキハ代理人ヲ置キ其旨地方廳ヲ經由シテ民政局ニ届出ツヘシ
- 第二十一條 前項代理人ノ權限左ノ如シ
  - 一 官ノ命令通知ヲ受クルコト
  - 二 坑内實測圖ヲ差出スコト
  - 三 鐵業規則第二十六條ノ届出ヲ爲スコト
  - 四 鐵區稅ヲ納ムルコト
  - 五 官ノ命令ニシテ急施ヲ要スルトキ其事務ヲ處辯スルコト
- 第二十二條 債權ノ擔保ト爲シタル鐵業權ヲ賣買讓與シ又ハ其鐵區ヲ訂正、分割、合併セントスルトキハ債主ノ承諾書ヲ其願書ニ添付スヘシ
- 第二十三條 鐵業規則第十六條第二號ノ場合ヲ除クノ外鐵業ノ許可ヲ取消シ又ハ廢業ヲ爲シタル場合ニ方リ其鐵業權ニ對シ債權擔保ヲ有スル債主ニ於テ六十日以内ニ其鐵區ノ鐵業ヲ願出ルトキハ他ノ出願人ニ對シ優先者ト認メテ處分ス



第十二條 鐵業ヲ相續シタル者ハ鐵業許可指令書ヲ添ヘ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ民政局ニ届出ツヘシ

第十三條 廢業シタルトキハ其旨地方廳ヲ經由シテ民政局ニ届出テ鐵業許可指令書ヲ返納スヘシ

第十四條 地方長官ノ判定又ハ臺灣總督ノ裁定ヲ請求スル者ハ其理由ヲ明記シタル請求書ニ詳細ノ實測圖其他關係書類ヲ添ヘ都テ二通ヲ所轄地方長官ニ差出スヘシ

第十五條 地方長官前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ通知シ相當ノ期日ヲ定メ辨明書ヲ差出サシムヘシ

第十六條 鐵業ニ關シ民政局又ハ地方廳ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ強要スルコトヲ得ス

鐵業ニ關シ鐵業人若ハ鐵業出願人又ハ其代理人ニ對シ臺灣總督又ハ地方長官ヨリ發スル書類ノ送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達スヘキ書類ノ全文又ハ要旨ヲ三日間地方新聞ニ掲載シ其掲載ヲ終リタル日ヨリ七日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト見做ス(三十年臺灣總督府令第三十八號ヲ以テ本項ヲ追加シ三十二年同府令第四十六號ヲ以テ本項改正)

第十七條 左ノ場合ニ於テハ其出願ヲ無効トス但出願手数料ハ之ヲ返附セス  
一 鐵業規則第六條ニ依リ定メタル期日以内ニ訂正ヲ爲サザルトキ

二 第五條ニ依リ命令ニ從ハサルトキ及第七條ニ依リ指定シタル期日以内ニ圖面又ハ書類ヲ差出サザルトキ(三十二年臺灣總督府令第九十六號ヲ以テ本號ヲ削除シ三十二年同府令第四十六號ヲ以テ更ニ本文ノ如ク追加ス)

三 正當ノ理由ナクシテ本則第七條第二項ノ立會ヲ爲サザルトキ

四 出願地臨檢ノ際出願區域ヲ明示スル能ハサルトキ(三十一年臺灣總督府令第十六號ヲ以テ第三號以下ヲ追加ス)

◎第四類 水利土木

○水利組合條例 明治二十三年六月 法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一 普通水利組合

二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲メ設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設ケタルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ內務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ



第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トシ但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

- 一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ
- 二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會ニ充ツルコトヲ得

前項ノ總會ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了

スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限り土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ



一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徴收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受並質入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ效力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ

招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遲クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村內ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ內一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徴收ヲ爲スヘシ

第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事
- 二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フヘシ郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得



前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ僱員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限り之ヲ賦課スヘシ

第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ

限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ每會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條 歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ內務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ヲ監督ス



第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ  
 訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ  
 涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得  
 前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
 組合ノ區域二府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例  
 ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス  
 第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出ヘスシ  
 前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内  
 ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ內務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇  
 月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ  
 兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシ  
 ヲ並實地ニ就テ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得  
 組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スル  
 ノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ  
 府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徵スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣  
 却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ

設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ  
 組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ內  
 務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ  
 爲メ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シテ決定セシムルコト  
 ヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會  
 成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ  
 管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト  
 認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認  
 ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請  
 フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ  
 得  
 前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域内ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從  
 事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシム  
 ヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ徵戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百二十八

水利組合條例



條ヲ適用シ其職務ヲ盡サヌ又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百二十九條ヲ適用ス

第七章 附則

二十三年  
法律第四  
十八號  
以テ行政  
裁判法  
制ヲ定

第五十五條 府縣參事會、郡參事會、及行政裁判所「ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事」行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院「ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

○水道條例 明治二十三年二月法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水池、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第一 水道事務所ノ所在地
- 第二 水源ノ位置(河川池湖又ハ掘井ノ別其周圍ノ概況)及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ
- 第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水池、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ
- 第四 給水ノ區域其人口一日ニ對スル平均給水量
- 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
- 第六 水壓ノ概算
- 第七 工事方法
- 第八 起工並竣工期限
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
- 第十 水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支概算
- 第四條 內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ
- 第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ檢査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良ヨリ市町村ニ命スヘシ
- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ



- 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
- 第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
- 第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證券ヲ携帯スヘシ
- 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ修繕ヲ爲サシムヘシ
- 第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得
- 第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ
- 第十六條 水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ
- 第十七條 市町村ハ一家専用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
- 第十八條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス

○河川法明治二十九年四月

法律第七十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法

- 第一章 總則
- 第二章 河川ノ管理

- 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並ニ警察
  - 第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等
  - 第五章 監督及強制手續
  - 第六章 訴願及訴訟
  - 第七章 附則
- 河川法
- 第一章 總則
  - 第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ
  - 第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル
  - 第三條 河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ
  - 第四條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス
  - 第五條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
  - 第六條 堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
  - 第七條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流



若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必  
要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條  
ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難  
ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ  
施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受ケ  
ル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得  
第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ  
施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ効用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物  
ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ効用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ  
關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得  
第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者  
ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得  
河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他

ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ於テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事  
實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトハ其ノ定員、給料、手當、職  
務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其  
ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業  
其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又



ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

- 一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
- 二 河川ノ状況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ
- 三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入

等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理者ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額并不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得



第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノアルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノアルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十五條 依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

トヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ己ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ



前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用者ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノ、外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河

川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣



若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ「國稅滯納處分法」ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ他ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下

ノ禁錮ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得

第六章 訴訟及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ヲ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受タル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得



第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴訟若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム  
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十五條 河川ノ臺限ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ  
第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

○河川法施行規程 明治二十九年六月勅

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
第二條 內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ  
第三條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ  
第四條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

示以ヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ  
前項ノ工事終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
第五條 河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ  
第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木、及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ  
第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ建築物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ  
第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス  
前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ  
第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラザルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケザル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ  
第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セザルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ  
公共ノ利益下ナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件ト



其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス  
 河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ  
 第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際  
 ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行  
 ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス  
 河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ効力  
 ヲ有ス  
 第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣  
 知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ  
 第十三條 內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰  
 金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得  
 府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金  
 若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得  
 第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第  
 二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察  
 ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

○河川ニ關スル行政監督 明治二十九年六月勅

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ  
 執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督  
 シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス  
 第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ響  
 影スルコト小ニシテ內務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セズト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス  
 一 河川ノ支川、派川及河川ノ附屬物ノ認定(三十二年勅令第二百  
 八十七號ヲ以テ改正)  
 二 河川ニ關スル新築、改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算  
 三 河川法第十七條、第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可  
 四 內務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分  
 五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法  
 六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課  
 七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却  
 第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス  
 一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分  
 二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課  
 此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其認可ヲ受  
 クヘキモノヲ定ムルコトヲ得  
 第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條  
 件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス  
 一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト



- 二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
  - 二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

○河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件 明治三十年十月勅

朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ
- 第二條 河川トナルヘキ區域並ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ
- 第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ボスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ

效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

- 一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
- 二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ
- 三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ
- 四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ
- 五 法律命令ニ違背シタルトキ
- 六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命ジテ工事ヲ



施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニシ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セムトスルトキ
- 二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

○河川工事ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキ土木監督經由ノ件 明治三十二年五月十五號

明治二十九年勅令第二百三十五號第二條第一號乃至第四號及第七號ニ關シ認可ヲ受ケントスルトキハ土木監督署ヲ經由スヘシ

○河川臺帳ニ關スル件 明治二十九年十月勅令第三百三十七號

- 朕河川臺帳ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス
- 第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其ノ

二十九年  
内務省令  
第十三號  
河川臺帳ニ  
關スル細則  
ヲ定ム

記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得

- 一 河川ノ敷地及堤外地ノ區域
- 二 河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ボスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀
- 三 河川ニ影響ヲ及ボスヘキ水流及水面ノ種類、數量、及位置形狀
- 第三條 府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ但地元市町村ノ多數ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ縦覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ鄰接スル市町村ニ限り併合縦覽セシムルコトヲ得(三十二年勅令第二百三十七號ヲ以テ但書追加)
- 第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ内務大臣ニ提出スヘシ
- 第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第六條 内務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ
- 第七條 内務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
- 府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覽ニ供スルノ方法ヲ設ケ其地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其更正ヲ爲シタルトキ亦同シ(三十二年勅令第二百三十八號ヲ以テ本項改正)
- 第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ
- 第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ



第十條 市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ

市參事會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其旨ヲ公告シ公衆ノ請求アリタルトキハ之ヲ其ノ縦覽ニ供スヘシ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ本項改正)

第十一條 土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ

第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

○河川臺帳ニ關スル細則明治二十九年十二月 內務省令第十三號

河川臺帳ニ關スル細則左ノ通り定ム

第一條 河川臺帳ニ記載スヘキ事項ハ凡ソ左ノ區域内ニ係ルモノトス

一 有堤部ニ於テハ堤外地及モ堤防附近

第二條 河川臺帳ノ河川平面圖ハ縮尺千二百分ノ一トス

河川ノ附屬物其他ノ工作物ノ圖面ハ其構造ヲ明瞭ナラシムルニ足ルヘキ縮尺ヲ用ユヘシ

第三條 河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノ、外總テ眞北ヲ上トセル其ノ輪廓ハ縱一尺二寸横一尺八寸トス

前項平面圖ニハ一葉毎ニ全川ヲ通シタル番號ヲ附シ重要ナル地物ノ外左ノ件々ヲ記載スヘシ

- 一 磁北
- 一 梯尺
- 一 地名及境界
- 一 流レノ方向

一 鄰接平面圖ノ番號

第四條 地方行政廳ハ河川ノ兩岸市町村ノ大字毎ニ少クトモ一箇所位置及高低ノ基標ヲ設置若クハ選定シ之ヲ保存スヘシ

第五條 川數並ニ堤敷ノ境界ハ總テ折線ヲ以テ區畫スヘシ

折線ノ交叉點ハ二箇ノ基標ヲ連結スル直線若クハ之ニ準據スル直線ニ基キ支距法ニ依リ之ヲ測定スヘシ

川敷ノ區域ハ青色實線堤敷ノ區域ハ褐色實線測標連結線ハ朱色實線支距線ハ朱色點線ヲ以テ河川平面圖ニ記入スヘシ

第六條 堤防ハ凡ソ二町毎ニ横断面ヲ測リ其位置及番號若クハ符號ヲ河川平面圖ニ記載シ別ニ各横断面圖ヲ調製シ一定基線上ノ高馬踏幅數等ヲ記入スヘシ

断面ニ劇變アル場所ハ前項ノ制限ニ依ラス實測スヘシ

第七條 左ニ掲ケル河川ノ附屬物其他ノ工作物水流及水面ハ其ノ位置形狀ヲ河川平面圖ニ載セ其長幅高等構造ヲ明瞭ナラシムル事項ヲ河川臺帳ノ帳簿ニ記入シ且ツ必要アル場合ニハ詳細圖ヲ添付スヘシ

各種ノ水制護岸堰堤

各種ノ水制護岸堰堤

乘船場荷揚場

道路鐵道

橋梁

水流

- 第一號書式ニ依ル
- 第二號書式ニ依ル
- 第三號書式ニ依ル
- 第四號書式ニ依ル
- 第五號書式ニ依ル
- 第六號書式ニ依ル



船渠船溜

第七號書式ニ依ル

右ノ外河川ニ影響ヲ及ホスヘキ各種ノ工作物若クハ水面ノ記載法ハ本條ニ準ス  
 河川ノ附屬物ハ河川平面圖及帳簿ニ記載ヲ附シ他ノ工作物ト區分スヘシ(三十二年內務省令第八號ヲ以テ本項追加)  
 第八條 基標若クハ之ニ準スル測標ハ其位置一定基線上ノ高近接基標若クハ測標トノ角度距離等ヲ第  
 八號書式ニ依リ帳簿ニ記入シ河川平面圖ニ記載シ得ルモノハ之ヲ記載スヘシ  
 第九條 河川臺帳ノ帳簿ニ記載セル事項ノ內延長箇所數等市町村毎ニ合計シ得ルモノハ府縣郡毎ノ合  
 計ヲ調製スヘシ  
 第十條 特別ノ理由アル場合ニ於テハ地方行政廳ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ第三條乃至第八條ノ規定ヲ  
 一時省略若クハ變更スルコトヲ得  
 內務大臣ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第三條ノ規定ヲ變更シテ正本ノ調製ヲ爲スコトヲ得(三十  
 內務大臣令第八號)  
 以テ本項追加)  
 (第一號以下書式略之)

○河川法第三十二條ノ費用補助方明治三十二年四月  
勅令第三百二十二號

朕河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ補助ヲ  
 爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス  
 一 河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト  
 二 工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共

團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三分ノ  
 二以內トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニアラス  
 第三條 此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算  
 ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得  
 第四條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者不明ナルトキハ河川ニ  
 關スル費用ノ内ヨリ其ノ工事ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得  
 第五條 府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又  
 ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスル  
 トキ亦同シ

○認可ヲ經ルヲ要セサル河川工事ニ關スル件明治三十二年五月  
內務省令第十二號

明治二十九年勅令第二百三十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム  
 第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更停止又ハ廢止ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス  
 一 河川ノ附屬物ノ新築、改築又ハ除却工事ニシテ著ク河身ニ影響ヲ及ホササルモノノ施行並  
 其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算  
 二 堤防ノ設置又ハ腹付ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算  
 三 河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ一時ノ施設ニ係リ著ク河身ニ影響ヲ及ホササルモ  
 ソノ新築、改築又ハ除却ノ許可

河川法第三十二條ノ費用補助方  
 認可ヲ經ルヲ要セサル河川工事ニ關スル件



- 四 河川ノ敷地又ハ流水ノ一時占用及一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續占用ノ許可
- 五 河川法第三十九條ニ依ル障害物ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ
- 第二條 堤防ニシテ其ノ對岸他府縣ニ屬スルモノ又ハ他府縣ノ管内ニ連續スルモノニ施行スル措置又ハ堤外ノ腹付ハ府縣知事ニ於テ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ
- 第三條 第一條第一號乃至第三號及第四號繼續占用許可ノ場合ハ府縣知事ニ於テ處分ノ後直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ

○河川法等ニ依ル告示方法ノ件 明治三十二年五月 内務省令第十三號

河川法第四十六條同施行規程第三條及明治三十年勅令第三百七十七號第二條ニ依レル告示ノ方法左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 府縣知事ニ於テ土砂打止ノ爲ニ要スル土地、沿岸、沿堤若ハ河川附近ノ土地又ハ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ノ區域ヲ定メ之ヲ告示スルトキハ其ノ地方ノ公布式ニ依ルヘシ
- 第二條 前條ノ告示ニハ左ニ掲ケタルモノノ一又ハ二以上ニ依リ土地ノ區域ヲ明記スヘシ
  - 一 市町村、大字、字又ハ小字
  - 二 地番地目
  - 三 一定ノ地物又ハ之ヲ去ル距離及方向
  - 四 圖面
- 第三條 内務大臣ニ於テ第一條ノ土地又ハ區域ヲ定メタルトキハ前條ニ準シ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

○河川法第九條ニ依ル命令ノ件 明治三十二年五月 内務省令第十六號

河川法第九條ニ依ル命令左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルニハ其ノ行政廳ハ河川ニ就キ直接ニ利益ノ關係ヲ有スル公共團體ノ行政廳タルコトヲ要ス
- 第二條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルトキハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更廢止ヲ爲ストキ亦同シ

○河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用補助ノ件 明治三十二年五月内務省令第二十一號

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ノ手續左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 内務大臣ノ直轄施行ニ係ル河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對シ補助ヲ受ケントスルトキハ其ノ工事ノ管理者ニ於テ工事計畫書、工事豫算書及ヒ圖面ヲ添ヘ府縣知事ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ但工事ノ管理者ニシテ行政廳ナルトキハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ議會ノ議決書ヲ添付スルコトヲ要ス
- 第二條 府縣知事ニ於テ前條補助ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ明治三十二年勅令第二百二十二號第五條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケントスルトキハ補助申請書ノ行政廳ナル場合ニ於テハ其ノ行政廳ノ直接

河川法第九條ニ依ル命令ノ件  
河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用補助ノ件



ニ管轄スル公共團體ノ地租年額及戸數ヲ調査シ私人ナル場合ニ於テハ其ノ資力ヲ調査シ尙ホ工事ノ計畫及工費ノ豫算ヲ審査シ之ニ對スル意見ヲ付シ土木監督署ニ送付スヘシ

○河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地處分ニ關スル件 明治三十二年九月勅令第三百九十一號

朕河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條 廢川敷地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第三條 廢川敷地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條 府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條 府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條 河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條 廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ

河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條 府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條 廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラヌ其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

○河川法第五條ニ依ル命令ノ件 明治三十二年十月勅令第四百四號

朕河川法第五條ニ依ル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ運用スヘキ水流若ハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス



府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條 前條ノ認定ヲ受ケタル水流若シ水面又ハ河川ニハ河川法第三條(敷地ヲ除ク)第四條第三項、第十二條、第十三條、第十六條乃至第三十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若シ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス  
府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件 明治三十三年勅令第四百四十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス  
一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若シ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者  
二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

河川法第四十條ニ依レル補償手續ノ件 明治三十二年七月內務省令第三十六號

河川法第四十條ニ依レル補償ノ手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十條ニ依リ市町村、町村組合若シ水利組合ニ補償ヲ命スルトキハ補償スヘキ物件ノ種類、員數及補償金額並ニ其ノ支拂期限ヲ定メ補償金ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所ト共ニ之ヲ其ノ市町村、町村組合若シ水利組合ニ通知スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ同時ニ前條ニ依リ定メタル事項ヲ補償金ヲ受取ルヘキ者ニ通知スヘシ

河川法第五十條ニ依レル命令ノ件 明治三十二年六月內務省令第三十二號

河川法第五十條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ヲ負擔セシメン  
トスルトキハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定ムヘシ

第二條 前條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第三條 第一條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ



期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セザルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ河川法第五十五條第三項ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ府縣知事ニ代テ河川ノ管理ヲ爲シ若ハ其ノ維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

○土木監督署ニ於テ河川法等ニ據ル府縣知事ノ稟伺、報告ヲ受領シタルト

キ處理ニ關スル件 明治三十二年五月内 務省訓令第十六號

河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ規程シタル事項ニ關シ府縣知事ノ稟伺又ハ報告ヲ受領シタルトキハ審査ヲ遂ケ之ニ關スル意見ヲ付シ本大臣ニ進達スヘシ但シ河川ノ附屬物ノ改築、通航料ノ徵收期限ノ變更及其ノ他事體ノ輕易ニシテ利害ノ關係他府縣ニ著シク影響セスト認ムヘキ事項ニ關スル稟伺ニシテ異見ナキモノハ直ニ依命通牒ヲ以テ之ヲ許可スルコトヲ得

○河川法第四十三條第一項ニ依レル命令ノ件 明治三十一年五月内 務省令第二十八號

河川法第四十三條第三項ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條 通航料ノ金額及其ノ徵收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條 公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條 通航料徵收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消サレタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ補償金額ハ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 通航料徵收許可ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ増額及徵收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 河川ノ視察其ノ他公務ノ爲メ通航スル船舶
- 二 行政廳ノ使用スル船舶
- 三 國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏
- 四 自家耕作ノ肥料ヲ積載スル船舶
- 五 府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏

土木監督署ニ於テ河川法等ニ據ル府縣知事ノ稟伺、報告ヲ受領シタルトキ處理ニ關スル件 河川法第四十三條第二項ニ依レル命令ノ件 九百十七



第七條 通航料徴收ノ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ府縣知事ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第八條 左ニ掲ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 許可ノ效力停止期間内ニ通航料ヲ徴收シタル者
- 二 第六條ノ規定ニ違背シタル者

○河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件 明治三十三年七月勅令第三百號

河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件左ノ通相定ム

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱ヲ設置スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サントスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却
- 二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其他土地ノ形狀ノ變更
- 三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採

第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ與船道ニ供スヘシ

前項制限ノ範圍ハ各與船道ニ付府縣知事之ヲ定ム

第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流シ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下附スヘシ

第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セントスルトキハ少クモ十五日前三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クモ五日前三條ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 第一條ニ依ル處分
- 二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可

第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三ヶ月以下ノ重禁錮ニ處ス

○砂防法 明治三十年三月法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法

第一章 總則

砂防法



第一章 土地ノ制限及砂防設備

第二章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第三章 警察、監督及強制手續

第四章 罰則及訴訟

第五章 附則

砂防法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ヲシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利益關係一府縣ニ止マラザルモノトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第三條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利益關係一府縣ニ止マラザル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公其團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事ノ作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得



災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行為ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行為ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲスナコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均

一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ヲ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ巴ムヲ得ザルトキハ其ノ土地ニ現存スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以內ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタル者キハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現存スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得



第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事項ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第三條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヨシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命ジテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ

履行スルモ必要ノ期間内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルト

キハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ付シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ



有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得  
第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下  
ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處  
分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分  
ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大  
臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ  
依リ權利ヲ毀損セラレタル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ  
提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月  
以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳  
ノ決定ニ依リ其ノ違背シタルトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但  
シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第三十二條若ハ第三十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於  
テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十三條ノ場合ニ

於テ補償金額請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟  
ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依  
リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコ  
トヲ得ス

第六章 附則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ  
規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

○砂防法施行規程 明治三十年十月勅令第三百八十二號

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ  
公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十

四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行為ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二



一 項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ依リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシムルトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日目前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日目前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土

地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ効力ヲ失ハス

前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ  
第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○砂防ニ關スル行政監督 明治三十一年一月勅令第十五號

朕砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此限ニアラス

- 一 砂防法第三條ニ依ル準用
- 二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲
- 三 砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分
- 四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算
- 五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法



- 六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
- 七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防護備ノ公用廢止
- 第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
  - 二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却
  - 三 砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分
- 第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲ爲ストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
  - 二 寄付ヲ爲サントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
  - 一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
  - 二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助ヲ爲シ得ヘキコト

○認可ヲ要セサル砂防工事ニ關スル件 明治三十二年四月 內務省令第十一號

明治三十一年勅令第十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 左ニ掲ケタル事項ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス
  - 一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ位置又ハ工種ノ變更ニシテ當初ノ計畫ト同一ノ效果ヲ收メ得ヘキモノ
  - 二 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ伸縮増減ニシテ地質ノ硬軟又ハ地形ノ變遷ニ起因シ其ノ位置及工種ニ變更ナキモノ
  - 第三條 前條第一號ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ
  - 第二條 此ノ省令ニ依リ府縣知事ニ於テ處分シタルモノハ直ニ土木監督署ヲ經由シ內務大臣ニ報告スヘシ

○砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件 明治三十二年八月勅令第三百七十四號

- 砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 本令ニ依ル地租其他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス
- 第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ
- 第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ

認可ヲ要セサル砂防工事ニ關スル件  
砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件



月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

○砂防法第三十三條ニ依レル命令ノ件 明治三十二年七月内 務省令第三十九號

砂防法第三十三條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者カ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

第二條 前條ニ依リ負擔金額及納付期限定マリタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體又ハ私人ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

○砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事竣功認可

ノ件 明治三十三年七月内 務省訓令第二十三號

府縣 沖繩縣ヲ除ク

明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事ハ竣功ノ都度竣功圖書ヲ製シ土木監督署ヲ經テ本大臣ニ稟伺シ工事竣功ノ認可ヲ受クヘシ

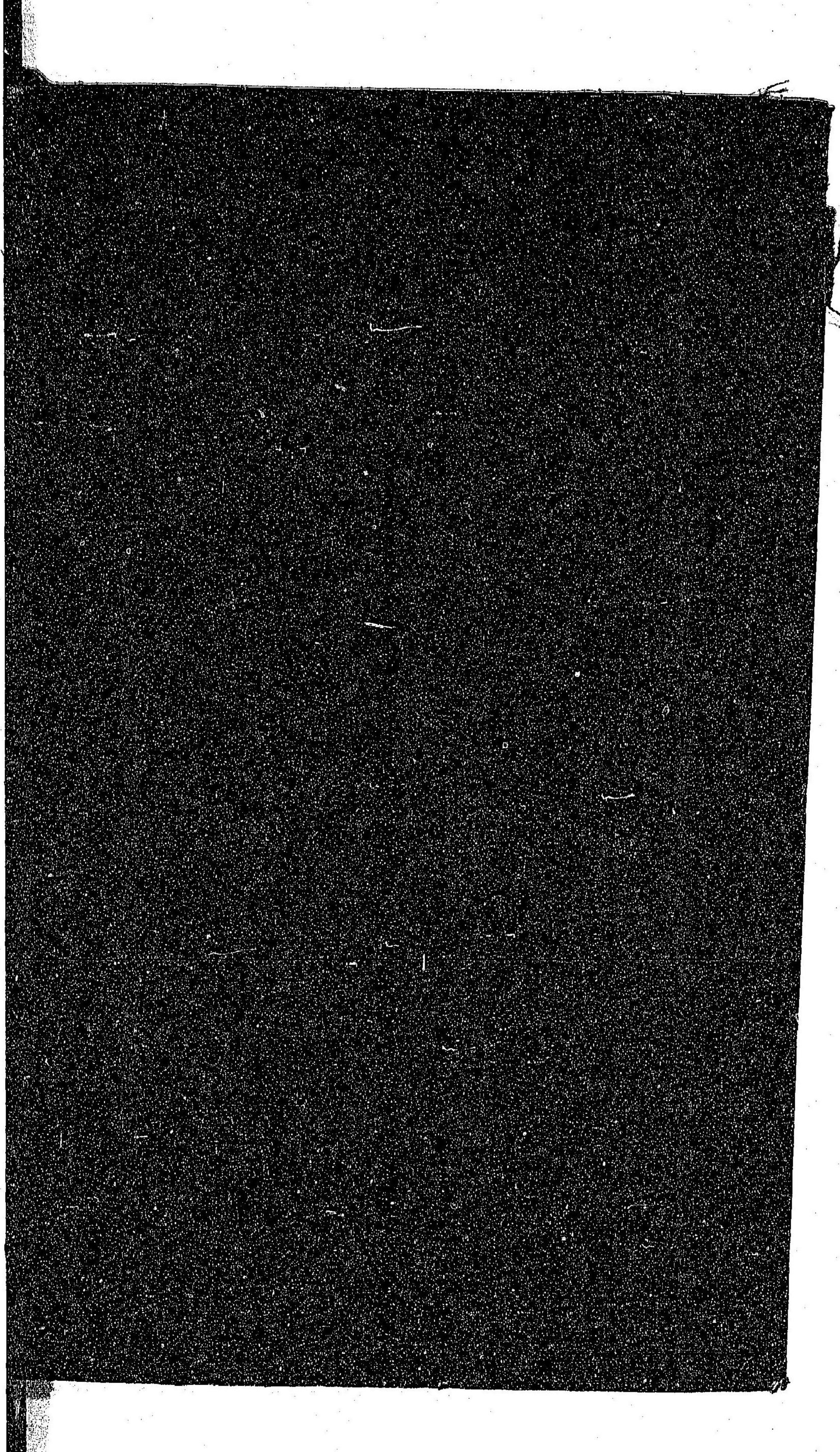


改訂  
補訂  
行政裁判ニ關スル法令上卷

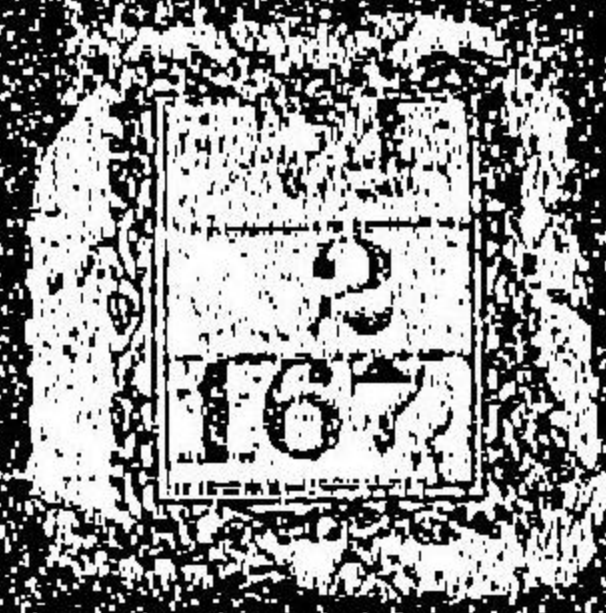


74  
2  
167









禁電子式複写

036376-001-8

CZ-318-01

行政裁判ニ関スル法令

(改訂増補)

文光堂

上

M34

BBR-0023





